

東北公益文科大学

総合研究論集

第24号

資料紹介

山形県立自治講習所日誌（第四回目）——大正九年—大正十年

三原容子

二〇一三年九月二〇日発行

山形県立自治講習所日誌（第四回目）——大正九年～大正十年

三原 容子

『東北公益文科大学総合研究論集』の第二十号（二〇

一一年七月）に、一九一六（大正五）年の第一期生の日誌を、同第二十一号（二〇一二年一月）に、一九一八

（大正七）年の第三期生と短期講習生の両日誌を、同第二十三号（二〇一三年一月）に、一九一九（大正八）年

から翌年にかけての第四期生「日誌」、同年の第三回短期講習生「日誌簿」と、第五回長期講習会「日誌」を判

読し紹介した。今回はその続編として、同時期に講習を受けた三つの組の日誌を判読する。これ以外の二、四、

五組の日誌は所在不明である。

①第六期第一組の日誌（大正九年十二月二十二日～大正

十年四月二十二日（一部欠頁）

②第六期第三組の日誌（大正九年十二月二十四日～大正十年五月三日）

③第六期第六組の日誌（大正九年十二月二十七日～大正十年四月三十日）

凡例

・変体仮名はすべて現在の平仮名に、旧字体は新字体に改め、適宜句読点を入れた。片仮名と平仮名は原文通りである。濁点のない仮名はそのまま、なまりによって濁点がついている箇所もそのままにしてある。傍線もそのままである。

・誤りと考えられる文字の後に正しいと思われる文字を「」で示したところがある。「曇」を「雲」とするような頻出する間違いはそのままにした。「」内はすべて三原による。「仝」と「ク」は「同」とした。不明箇所は□とした。

・日付と曜日のみ太字表記とした。

・返り点の必要な箇所はほとんどないが、「くださる」と読む「被下」はそのままにした。

・くりかえし記号（「く」の長いもの）は文字を繰り返して記した。

①

〔表紙〕

六期 日誌 第壱組〔組〕の下に薄く「員」とある

〔本文〕

〔何らかの事情で何枚か欠けている〕

皆んなが国家主義の感念〔観念〕が突と胸底に湧き出で全身に流れし事ならん。

武道は八相、いよいよ面白みも増し来た。

二十三日〔十二月二十三日 木曜日〕 晴 山口勢太郎

昨夜より降り積りし雪満天満地に積る事三寸、朝五組掃除、他組武道。有吉学務課長の憲法、日本の国体上に万世一系皇統を戴き、下に忠良臣民ありて一家族の観念を以て終始皇室を中心とし世に誠忠を尽し、忠君と愛国を一途するは世界に比無き国体と論した。長宗我部先生より産業組合の話聞いた。

午后武道、七時の号報〔号砲〕が鳴ると共に静になつた。黙学が始まつたのである。机に向て自分の思ふ俣の学科の勉強に取掛つた。一つの電灯から白い光を放て四方の小さい室を隅から隅まで照して居る。頁を繰る音、寂寞の内に聞える。九時礼拝を終て床に付く。

二十四日 晴 沼沢恵一

朝窓外ヲ見レバ薄雪满地ヲ覆フ。二組炊事、三組掃除、他組武道。

学課、先生より直心影流乃修業者の話あり。拾時より体

格検査ヲ受く。午后横田技師の森林の定〔以下、一枚破り取られた跡がある〕

式拾六日 晴天 會田光雄

待ちに待たれた日曜も明日□□んで夢途をたどった？

寂寞たる舍内に響き満ちたる起床の鐘に夢途をやぶった。舍内にも屈指の我等朝ねぼうも、今日に限ってもこりと床を離れた。六時半、充分に腹ごしらへをして各自待ちかねた楽しい所に足をむけた。なつかしき産地に帰る者も有れば、ばんから氣象を現して散歩する生も居る。又、舍に残つて樂器、議論に時を移して窮屈な心を慰めるに余念ない者も有る。午后二時より村山四郡本校卒業者集つて村山会を開く相談之有る由。場を思ひ思ひに楽しく遊んだ。今日の日曜もいつの間にやら、てんでに□〔軽?〕い、いび〔いびき〕を聞いた。

二十七日 天氣雨後雪 服部主計

起床列〔例〕ノ通り五時。一組二組校内掃除、三組炊事、四五組武道。

学業一校時ハ所長殿ヨリ農村経営ノ話シ。第二校時、自治二付中館殿ヨリ話シ。終り、午後一時三十分ヨリ一組人糞尿扱〔汲〕ミ、二組四組ハ床廊下掃除、三組炊事場乃〔及〕食堂風呂場、五組講堂図書館掃除終り。午後六時ヨリ道場二集ッテ本年度暮年会〔忘年会〕ヲ開キ、夜食事ハ山形名物八代ノス、〔寿司〕ヲ開キテ、愈々各々ノ余興二入りタ。又茶菓モ山形市名物十一屋ノ菓子ヲタベテ□ナガラボツボツ面白キ歌タ等ヲ聞キ、モウ終リタル時ニワ九時四十分デアリマシタ。是ヨリ礼拝ヲ終リテ床ニ付ク。

二十八日 雪に風あり 結城忠男

五時なるべるの音に暁の夢を破られ、ふと窓外を望けば一片の雲だに無き空に輝きし昨夜の月は影だに無く、一竿の雁の鳴き過ぎし後は、形だも無く、只だ庭園の片隅にある落葉しきった梧桐納屋の前に投捨てある荷車に暮る、年を惜むが如く、ほろ、降る粉雪は三寸ともおぼしき程積りなれば、節とは言へ、かく迄で変りしは一夜のわざとは思われず、我れながら驚きし事一方ならぬ。暫

したてば、たぞや行くスリッパの音、たぞや行くドアの響を。寂寞なる舎に遠く近く「お早う」と言の葉の間にどれもどれも今朝の冷を言い交せり。午前八時より船越先生の習字を教りぬ。十時より十二時迄で所長殿の農村経営のお話ありて、午後よりは休みなれば午後より帰宅許され帰宅せる者さぞや喜びたらん。

夜はしんとして薬師堂の常夜灯は降りしきる雪の中に涙だの如く沈んで見え、段々と夜は更け、何処で立留てふくのやら、按摩の笛の響き。夜の不安を語るが如し、いとも哀れに聞ゆる汽笛、風荒く窓硝子には鹿の児の背の様に斑白となり、ああ美しき哉。

大正十年一月四日 大宮新左衛門

もう入寒して寒さも一方ならず、今も空一面雲り、時折り粉々と散る雪の寒さ。忘年会の次の日先生から明けて顔合はす時、ばつと染めし血潮の美しきに微笑まうと云はれし、相違はず、御日出度うと祝ふ人毎に快活の氣の見へけり。然し、加藤先生の御見えになられませぬのが何より口惜しい事なり。

二十九日から今日までの内、各児が各児の郷里で忘年もやりしらん。けれども新年祝ひは正月のおいしい御餅は皆んなを喜ばせし第一か二に、其れより懐しい両親の温ったかい言葉に一番か特等、嬉し事ならんと思はる。今日は習字、船越先生の謹書、見せて貰ひし人々、あつと驚いたでせう。午后実習、一二組大掃除、三組炊事、四五六組薬仕事事の準備。

正月の風は市中にも療〔寮〕内にも颯と吹き入り居るのみ。何とはなくどつとせぬ。

一月五日 晴后曇 沼澤憲一

今朝も大部寒ずるが流石の我々健児男子、寒氣サムケもなく、各組乃仕事に取かゝる。一組武道。本日は風紀係、衛生係より色々の点を注意せよとのこと提示ある。学課〔約二字分空き〕五十嵐先生の金井村の研究について色々拝聴す。午后所長さんの農村経営について、いつもの元気で真剣なる体度〔態度〕で且鮮かなる口蝶〔口調〕で口述せるや、我々の脳髓をして一層奮起せしむ。其の後は随意、夜は風呂を浴びて九時礼拝終りて床に付、了り。

一月六日 山口勢太郎

五時起床、寝心地快い蒲団を思切つてはねのけた。硝子窓は寒国の花とも云ふか、一面結晶して居る。外は実に暗い。誰も経験する辛さは厳寒の朝起際である、衣服を着更る時である。けれども我等の修養より考へは寧大事の前の小事である。

三組炊事、五組掃除、一二四六組武道。一時間の武道の後、更に新しき勇気を畜〔蓄〕ふべく食堂に呐喊す。その飯の美味さ。

午前中館先生より自治制度の講話。午後一二四組、実習他武道。加藤先生舟越先生は南村山郡の中堅青年指導講習会に行かれた。時計の針か九時を告げた。礼拝をして床に付く。

一月七日 晴天 高瀬傳記

一組掃除、三組炊事、二四五六各武道。楽しき夢いまだ醒めず、起床のベルの声にふと思ひ時計を見れば五時。枕を蹴つて洗面。我が組の担当掃除なれば、各自自発的精神にてやる処が三四十分にして終る。今だ朝礼まで

は暇があるため、各自議論に耽る。而し室中の火鉢甲板には此の時、実に困った。手が冷たき事。だが此れも修養の事と思へば何気たし。

第一校時は都合にて習字す。第二校時自治制度にて中館講師熱弁を振つて教授さる。第三校時所長より農村経営について講話〔義〕なり。第四校時全組武道。入浴第一組最初であつた。つかれたからだを医す。快かなる身で勉強に取りかくる。礼拝して床に付く。

一月八日 土曜日 天気雲 服部主計

起床五時列〔例〕のごとし。寒気甚だ寒し。二番組掃除、三番組炊事、一四五六武道、五時半より六時半迄デハ武道。終リテ天皇ニ参拝シ、七時ニテ朝食事終リ各々室ニ入り、八時ヨリ習字、十時ヨリ長曾日部〔長曾我部〕殿ヨリ産業組合ノ話。土曜日ニテ午後ヨリ休ミニテ帰宅スル者アリ。

朝武道際ニ鈴川村ノ武田君ガ今日ヨリ先十時間入ルヨウニナツタ。又中食ノ際ニ第二期生ノ生徒ガ共ニ練習ニ入ルヨウニナツタ。加藤先生ト舟越先生ハ南村山郡ノ中堅

青年指導講習会ニ行カレタ。時計ノ針ガ九時ヲ告スト共ニ礼拝ヲシテ床ニ付ク。

一月九日 日曜日 天気晴天 會田光雄

起床の鐘に目をさまし和氣あいあいたる健男子嚴寒を歡ず。裸で浦〔裏〕の清き□川にならんだ其目、各々バケツ桶を以ってかぶり始めた。其の元氣なる有様、實に意言外に出る。列〔例〕の如く清らかなる身を以って講堂に集り君が代を合し、皇國の盛運を表現し其々勅語奉読して一日の行に実行を易くし七時朝飯して、日頃待ちたる日曜なので各々舎を後にした。

一月十日 晴 月曜日 結城忠男

新たなる年改りてより早や十日となりぬ。只だ一つ五燭の電氣の淋しく輝く道場にて耐え難い今朝の寒を偲びつ、掛声勇まし。直心影流武道を船越先生より教りぬ。四辺は寂寞としてまばらなる星の影のみ。ほのぼのと明け行く曉の空を一声のこしてねぐらより飛び来る宿も知らぬ小鳥、公園の林にと行きける。武道を終る処、所長

は一人の客を案内して參觀に來たり。其の客こそ所長無二の親友なる鹿子木先生なりけり。農業と題して所長の講演、次に鹿子木先生は青年諸君よとテーブルを力強くた、きながら世界に□する日本の立場や現代青年の覚悟と身に沁む如き講演致す事一時間、彼れは寒風をおかして蔵王山をスキーにて來たりしとかや。午後より大掃除なり。武道一時間あり。夜は常の如し。

一月十一日 晴 火曜日 大宮新左衛門

一、一月も早や中の句となりぬ。寒とは云ふもの、屋根の雪は消へ行くのみ。午前は晴れたれど、段々悪く變はり來て、午後半ばより雨降り初めて、街路の泥を遠慮なく飛び散らして走しくる。自動車を美しき眉寄せて道端によくる着裝飾りの女、いと哀はれなり。よくるによけかねて錦に飛ばされし泥を打ち見るもの、集〔愁〕眉を見るも転た哀れなれ。も一つ、紙買ひの外出土産、如何に水不足とは耳にし居れど、二台もして自動車で水供給に市内廻るとは、其の心は有難かれど、水不足の夢も知らぬ他よりの目には、滑稽地みた哀れのローマンス

にやあるらん。

オット余り感じの深きに忘れてすまん。先生の御病氣案づらる。早くお目もじの榮に浴びたく、毎夜拍手の中に祈り集む。

仕事、第四組炊事、三、五、六、藁仕事、一、二、四、武道。武道は八相修業中、趣味駁々たり。

一月十二日 水 沼澤恵一

今日は朝から雪なれ共積りもせず。学課、五十嵐先生の話、荒木技師の講演。午後一二四組武道、今日は后前中ヨリハ却ツテ午后になつて寒ずる。流石は東北の健男子寒さを厭なくめんめの掛声も潔きよく鼓幕〔鼓膜〕を打ちぬ。今日からは二本目に入つたので、益々興味を帯びて来た。

他組実習、実習は草鞋作りで之も仲々面白い形の大なるあり。亦小なるものもある。毛の有る者、無いものなど種々様々である。了り。

一月十三日 朝晴、午後曇天 山口勢太郎

今は冬だ、大寒だ、四季の内最も寒い時である。然り、冬になると草は枯れて、木の葉は無くなる。又鳥は何処かへかくれてしまふ。だが、鳥と雀は残つて居る。人は寒い寒いと云ふて火鉢の側へ寄つて外へ出るのも数少いとは鹿子木先生の御話する通だ。矢張其の通り寒いからだ。辛酉年、丙子の日、五時参十分鐘の鳴るのは武道直心影流始めと云ふ吾等自講生の課業の報だ。なりうべくば軽きシャツ袴の扮装にて、何時もの頭を縮めて大股で道場へ行く。今日は未だ二人きり居なかつた。早速『寒いな』と云ふた。御早う兼のあいさつさ。一本目の練習、西洋人に見せたら、自動人形の様な手足を動かすのと。其の中に大和魂を混して真の直真影流が出来上るのだ。エーヤーの掛声はエヤエヤ出来ない。課業、公有林野の整理、吉野技師、産業組合、長皆我部氏。

一月拾四日 高瀬傳 記す

起床列〔例〕の如し。寒さ身に沁む事厳しい。列〔例〕の如く馬見が崎に行つて冷水に身を清めて帰る。雪は相変らずしとと降る。暫くして武道に取りかかる。午

前第一校時に習字、第二校時、自治制度、午後一時まで議事堂に行き帝国農会より集たる山崎農学士の講演あるとの事で昼食速がして講演を聴く。話は農民の自覚とだいいして熱弁を振つて演じた。夕食午後七時半、礼拝九時、後床に付く。

一月十六日 天氣雨降り 日曜 服部主計

一月十六日ハ日曜、我等ハ日曜ト云フナガラモ五時ノベルト共ニ不ト床ヲ羽ネ起キタ。馬見ガ崎川ニ冷水ニ行キ者モ有リ。又川ヤ井ノ水ヲカブル音ハ実ニ勇ク有リマス。又月日ノ立ツ事ハ早キモノニテ、我レ私ハ入所シテヨリモウ一月トナリマシタ。今朝ハ日曜ニテ皆シナガ足ノ間々ニ外出ヲ初〔始〕メタ。一組校内掃除、五組炊事番、二三四組ハ武道。

夕食事ハ五時半、七時ヨリ九時迄デ目読〔默読〕、九時ヨリ礼拝、終リテ床ニ付ク。

一月十五日 天晴 土曜 〔筆記者の名前と思われる姓二字と名二字分が破り取つてある〕

午前八時より渡辺農省〔商〕務講師ノ農村労働問題の有益なる話。十時にて了り十時ヨリ正午迄県庁にて同氏ノ自治の講話聞に行く。午後より県農会協議会を聞学す。

一月十七日 晴天 結城忠男

白衣に袴をつけていまだ薄闇の長い廊下に通りつゝ、道場に急ぎぬ。五燭の電気はうら悲し層に見え、まつて居た友の顔はおぼろにと見いけり。武道の終る頃に遠くより納豆売りの声いとも哀れなり。八時より十時迄で習字を教りぬ。十時より十二時まで有吉理事官の憲法を教りぬ。午後より大掃除あり。三時より紅白と二つに分れて撃剣の試合ありき。赤は二点を□めり。夜は湯に入りて一日の薬と思ける。

一月十八日 火曜日 晴天 大宮新左衛門

第一回弁論会を開く。話す材料には敬服、否驚く点多かりしも、話す体度〔態度〕にはどうも感服出来ん。中には数名ありしが、一般に落付〔着〕きないではあるまいか。十日許り居た卒業生の黒田兄、本日帰へれり。衛生

係の方から炊事場で齒磨使はぬ事と注意さる。今朝も可成り寒かった。けれども馬見ヶ崎まで駆けて身そ、ぎする勇士、相かはらず意気平然たるものなり。夜武術をして部屋に入れば、裏窓より射し入る寒月いと懐しく、又古里が恋しくなる。日中は武道よ学課よ何でも思ひなく懸命にすごすも、静まりたる夜半に冴く月見れば流石に両親の事がよく思ひ出され来る。

一月十九日 水曜日 晴 沼澤恵一

今朝ハ大部寒じ□にもかゝらず我組より冷水浴するもの、最早全部になんなんとしている。舟越先生は足をいためて居つたにもかゝらず我々のためを思つて出席せらる。亦しばらくで御目にかゝつた所長さん、未だセキが出るけれ共、明日より短キ講習会あると云ふので今日は元氣を出して出てこられたのだろう。午后より運動部主催の柔道の仕合あつた。終つて所長さんの批評の中に気合は中々良いが、然し業は少しくまづいと、大いに稽古する余地あると思つた。而し一般ヨリ見るに良好と言はねばならぬと思つた。

一月二十日 曇天 山口勢太郎

県下教員の短期講習会は本日より開会せられた。此の短期講習会の開かるゝことは吾等県民の大に喜ぶべきことにて、又入所せられた講習員は実に幸福の方と思ふ。人数参拾名、何も中年以上の人々で、僕等家族も一時に大勢となり自治寮は仲々さうさうしくなつた。

午前拾時入所式挙行、午后一二組武道。短期の先生方と一処に御習した。三本目始習ひした。三四六組藁仕事を、第五組炊事、大勢なので御苦労様だ。

一月廿一日 雨 高瀬傳

昼間はさしも賑かな自治寮もまだ起床の時間に十数分前ので〔なので〕寮生楽しき故郷の夢に耽〔耽〕つて居る。まもなくして、定刻の起床のベルは寂寞を破つてなる。手拭片手に楊子口にしながら洗面所に行。何れも簡単ながらの御早□御早□と挨拶に例の如く五時半には道場に行く。今だ見なれざる直心影流の練習に真面目に取り罹る講習員の方々、見る人□に面白い。定刻に朝礼が終ると講習員が先に食事す。

午前八時から十時まで五十嵐女子師範長の現今に於ける帝国の思想問題に付いて熱弁を振つて演ぜられた。第二校時に林学講義あり。午後から県立養徳院、講習生全部縦覧に行く。院長養徳院一班に付いての懇切なる説明があつた。一組掃除、五組炊事、他組及び短期講習員全部武道。

一月式拾貳日 雲 會田光雄

二三日来の雨で殆んど雪は消てしまつて大寒とも思れざる天氣で有つたが、今朝思ひかけ無くも一面銀世界に變つて居つた。故に寒さも可成ひどかつたが相変ず元氣満々たる我等健男子、まるっ裸で寒雪を冒して清き冷水をかぶり始めた。嗚呼近年はやる意氣白弱〔薄弱〕なる青年に拝見させたいものだ。午前中は伊之宮男子師範学校長の実業補習学校に付いての御話、語り方は丁寧で上手だったが、中実はず々々々で有つた。而し風邪上の促成栽培には可成で有つた。

昼飯の代りに食パンなんて我々血氣盛んの青年が一本増して四本にした所で片腹もふたがらない。之れには実に

閉口した。何んだか栄養不良で少しやせた様だ。午後から煙草専売局見学した。如何に分業的とは云へ乍、仕事の上手で早いのは驚かざるを得ない。殊に袋はり煙草つめには一層目を引かれた。而し□感には塵が立つてとても我々は咽喉がいたくなつて長く居られない事でした。三時半帰着、短期講習生は二時迄武道して、其後高千穂製紙場見学に行きし由。四時半頃帰つてきた。又こゝに一つの優心〔憂心〕が醸した。昼飯の不十分なので各児すっかり腹が空にして夕飯を待つたが、今日の炊事当番は未だ馴れない先生方なので、もしもメツコ飯等炊きはしまいか、如何に空腹でもメツコでは充分に食れないと云ふ一大問題である。五時半にして夕飯のベル鳴やマルや、小便も半止して我先と食堂に向つた。幸にもメツコ所か入所以来無肩〔無比〕の上々出来、鬼二鉄棒の如く、空腹の底なし。忽にして鉢は空になったので、ひようし抜けた様に目と目を合し、初て腹の□〔座?〕いのを感じた。今日は土曜日、黙読時間の無いので何んと無くゆるゆるした。

一月廿三日 日曜日 天気晴 服部主計

もう大寒と云ふながらも雪が少くなり春々となりましたのに、今朝五時ノ時計と共に起きて外を見るともう雪一尺余も降りて、我等は大いに驚きました。何が勇しいと云ても雪が一尺余も降りたのにも馬ヶ崎〔馬見ヶ崎〕迄で駆けて身をそぐとは、我等はどうも敬服しました。又外出をして見ると小さき小供が声を出してナバコ〔タバコか?〕を売り行のには誠に感服しました。又先生方の炊事の上事〔上手〕なのには誠に驚きました。校内掃除は三番組、一二四五六、後の先生が武道。午前八時より男子師範学校長の実業補習学校の講話。十時より女子師範学校長の世界的支配之五大民族の講話。午後一時半迄にて終り、一時四十分には食用パンを分配になりて、午後より自由外出となりました。五時半には夕食となりました。七時より九時迄で目読〔黙読〕、九時のベルと共に礼拝を終りて床に付く。

一月廿四日 月曜日 結城忠男

銀杏の葉の模様ごと今朝の身に沁む様なる寒さの為に色

どられたり。ほのぼのと明け行く空、薄どんよりとなりみぞれさへ見えて道行く人の足のはこびもいとゞせわしく見えたり。

午前中は所長殿の農村の話あり。午後より農事試験場を見学せり。帰校は四時? まばらなる星の影は薄紫の雲なびく故郷の山に浮び、只だ独り窓にもたれて亡き友を偲びて、いつしか眼鏡はおぼろになりければ人知れづカーテンに拭いて床にふしぬ。

一月二十五日 火曜日 雲り 大宮新左衛門

今夜は講演会に小学校の短期講習員が行きて療〔寮〕内はひつそりと静かに落ちつき、どことなくゆつたりとした夜だ。いつになく温つたかい夜だ。ア、欠伸が出た。眠気さして来る。余りが静かで温つたかいからどうしても眠い。ア、欠伸が出る。とても堪へられない。——え、腕枕で一寸失敬しやう。オイ君何んだ。黙読中其んなのんきな真似して! おやおや気がゆるんだか、もうしつかり読まう。

一月二十六日 水 雲 沼澤恵一

昨日からの雨気で今日も何となく体がだるい。金井村の研究、長澤則彦先生の講義あり。午后武道。先生は工業試験場視察す。

一月廿七日 木曜日 晴 高瀬傳

例の如く、而かし午前一校時には講習生は武道、短期講習生は長曽我部氏産業組合の講演あり。十一時より所長の地主対小作人に付いての講演、真剣で演ぜられた。午後からは所長の直心影流に付いての御話し方々説明あり。夜の沈黙時間中は話を耳する事は少しもない。其れには各自の注意を払つ居るからだ。なる程斯様にして修養しなくてはならんと思ふ。九時来「礼」拝後床に付く。

一月廿八日 天気雲 金曜日 服部主計

起床五時、列「例」のごとし。寒気甚寒し。炊事、先生之四組、校内掃除先生三組、生徒二組一三四五六武道ス。尚先生方も共ニス。午前一校時には所長ノ農村経営の講演有り。二校時十時半より清水先生之農業経営之講演、

午後二時より文明進展乃農業経営、四時四拾分に終り。四時五拾分より先生方武道、五時半夕食、七時より新年茶会開き、清水先生ノ講演を聞き九時に終り。九時に礼拝終りて床に付く。

壹月貳拾九日 雲 會田光雄

朝寝の修養を積んだる我らが入所以来嚴格なる五時のベルに例の習慣を縮られ、今日に到ること、早一月半、塵も積れば山となるのたとえの如く、積りに積りし朝のねむさ、今朝となりては山の如く。起床のベルも何んのその、聞る筈は無く、浮世離れた夢途をたどるも無理はなし。

八時よりかの謹嚴なる所長の老農の名々伝と所長の朝鮮旅行の話。所長独特の氣象を現して朝鮮で演説をやったのは有り有りと察しられる。而しさしも頑固な所長も聞けば聞く程暖い愛らしい所が有る。話ノ語り方を見ても分る。語る時は元氣あふる、ばかりの勢を以って人を楽しみみと感ぜらせるが、而し笑ふ時は一種異様な□變の声で笑ひいかにも面白い様で有る。而し如何に笑ふに

もするとい眠光は相も変ず恍々たり。

十一時より清水氏ノ農村経営の□題のはっきりとした話才のある頭と技量の有る訓話を繰返し語り続ける事一時半迄、我々講習生初め清水氏は勿論、腹のすきたるを知らず。午后より相変ず味ある清水氏、――将来我々の実行すべき有益の御話、実に暗夜に光を得たる如し。四時ヨリ師範ノ武道酬志会見物、佐藤、芳賀、桜井、笠原の諸君、席に列し自治講習所の盛なる武道を發揮した。痛快痛快。夜は我国開国以来□二忠臣菊池武氏の忠勇義烈なる現燈、長澤氏の水の流るゝ如く、急流もあれば静な流も有る如く雄弁を振って説明ス。恥し乍、さほど菊池の忠勇なる事を知らざりしに今夜初めて真の評価の有る所はるか楠公に勝る事を知る。十時修了す。

一月三十日 日曜日 結城忠男

澄める月影をふみつゝ、背戸の小川に佇づみしまゝ、自然の美に独り讚美の声をひそめて面を□□いて自室に帰る。武道を為す事一時間、八時より所長よりの講話あり。十時より清水先生の話を承り、午後よりは休み□（?か）

武徳会に行く者もあれ道場にて武道をやる者もあり、自室で本を読む者もあり、声高く笑つては手をたゝく者さへもありき。何処なく無邪気な小供かの如く見え、心から嬉しく感じた。夜は変り無く床につく。

一月三十一日 雪天 勢太郎

ガタンガタンとの窓の音、外は吹風だ。硝子越に外を見たら。真暗にて一物も見えぬ。オホト寒い。戸音さへ凍み付さうだ。矢張り冬だ、冬だ。烈しい冷底の氣身にしみる。大寒中の寒さ?

清水先生の産業組合、一々実の入たる御話、吾等の胸底に徹した。殊に先生の事実談には敬伏〔敬服〕せざるを得ない。本日所長さん、何故か御見えなさらなかった。又御病氣が知ら。

二月一日 火曜日 晴天 大宮新左衛門

長期の吾等は身を清めて神参りす可く、今朝の彼の寒さにも。清い清い馬見ヶ崎の流れに褌せるも、小学教師の短期生は誰も水を被らない。どうしたものやら神参りは

せぬかつた。流行感冒に呻吟する者四名。

二月二日 水曜日 晴天 沼澤恵一

短期生が十二時に一片の修了書を手に戴き微笑の笑凹に渦まいて講堂から出て来た。どれもどれもが渦巻く笑凹の嬉しげさ——昼飯すまずと療内〔寮内〕の騒しい事、遅しかつた。夜は大雨の後の如くひつそりと静まり返へつた。私等の心も悠々として洋上乃帆掛けの如く迫る所なく、気の向き次第、左右前後自由自在、睦ましい話しも学問も思ふ存分——嗚呼愉快。

二月七日 月曜日 晴天 山口勢太郎

去る三日から四日間、帰郷して宿題の反当米の生産費調査をなせり。今日からスキーの講習会に行く。惜しぎなく射す太陽と雪野の輝きとで、惜しぎなく顔日に焼けて大賛成。師範学校庭にて平面滑走の練習に——彼の易い事にも何回転びしか——先生の話しに依ると日に五十回転ぶのは並だ、記録の必要なし。然し五十回以上転んだなら日記につけてもよからう——と。

二月八日 火曜日 晴天 高瀬傳

裏窓から西日入り射して外で遊ぶ工業学校の生徒を打ち見しとき、坐ろ皆んなの有様が目に浮ぶ。彼の長い橋の上に立ち止まつて眺めて居る田舎の人の笑つて居るのが見える。次に堤防から滑り下ちて転んで居る様も頭に浮び来る。巧みに門くぐり抜けて惚められし様も——嗚呼惜しい、風邪気さいもないならば、俺も一肌抜いで見せるがなあ。仕方ない無理はしまい。もう大底帰る頃合だ。どれ、勇み揃ひ来る姿ばかりも眺めやう、玄関まで迎へようかな。

二月九日 水曜日 曇天 會田光雄

スキーの一隊——惣付山〔双月山〕の練習場に進んだ。午前中、全制度、半制度の滑走練習。午后行軍、八十度程の斜面を電光登して同半制度滑走で谷に、而して別な峯に上り下りて又下る。小柴林の中を何んのものともせず、七転八倒、倒れ方練習乍ら下りて、又別峯に又谷に、峯又谷、勞れ果てて大辟易、警官のしげ連の有様いと可笑し。軍隊の柴田特務曹長、生れて以来の苦しみ、嗚呼、

辛いといと、大汗みどろ。幽谷を下り下りて二時半、平地の部落に出た。

二月十日 晴天 木曜日 服部主計

朝五時半に起き武道無し。列の通りに我等は九時半迄に惣付山の練習場に集合した。午前中は全制度の練習、捨ひの練習。午前十時半頃より先之練習場に行軍して半制度之練習下りて中食す。午後より行軍は盃山に登りて練習す。山を下りて三時半であった。山形試験場員見学、加藤所長より労力分配に付講話有り。加藤所長、高橋君、金君と共に、東京に出発した。

二月十五日 晴天 火曜日 結城忠男

朝五時起床す。第一組四名は炊事を為す。午前中は船越先生の柔道を教らぬ。午後より第三十三聯隊の見学を為す。三浦中佐殿の講話を聞き一足早く四名の者は講帰す。短期講習生の三十四名は来り炊事の多忙一方ならぬ。八時半に炊事を終へ九事〔九時〕に礼拝す。すぐ床につく。他は無事。

二月十六日 水曜日 晴天 大宮新左衛門

先達て有益な話を下さつた高野農学士来られて、再び吾等に新光明を吹き入れて呉なさつた。デンマルクに於ける砂漠植林上の一大新知識を得た。——北海道移民で感心な青木喜三郎の精神を聞いて共鳴同感。夜有吉学務課長の話有り。高野先生の小さき人間一個は大自然を大変化せしめ得る力を有すと説かれし事に非常に感じた。

二月十七日 吹雪 沼澤恵一

午前中には聯隊司令部の河端大尉のお話し、先日上京せられた所長さんは午前七時半の汽車にて帰所せらる。

二月十八日 雪 山口勢太郎

今日も吹雪か、と思はず叫んだ。雪！雪の好否に付いては未だ徹底しない。午前所長さんの主義に付いての御話、自己の立場、哀心〔衷心〕より知り得た。次に男子師範校長の上杉公の講話。午後武道、舟越先生より打太刀の一本目二本目を御習した。仲々出来ない。夜、南部之中堅青年と茶話会が催された。目に見ゆる名参〔乗〕

り合ひの滑稽さ。

二月拾九日 極晴天 高瀬傳

夕べまで雪起しの風が吹き荒んだのに今日は馬鹿い暖たかい日だ。何んとなく春らしい気がする。午前中は中館氏の準備の都合によつて平易なる皇室論と称する本によつて中略的な講演あり。内容如何は実に共鳴した。而し其の時間、随分〔約一字分空き、「睡」か〕摩〔魔〕におそはれつつあつた人も数多あつた。

午後土曜日なれば外室する人は無やみに多い。其の行先は何処かと言へば、図書館に行く人、す的に多い。それには我等講習生も満足する。又は新鮮なる空氣にのぞまんが為めか散歩する人もある。午後七時半からは県学校衛正〔生〕主事なる某医士の青年の衛正〔衛生〕に付い講演あり。嗚呼——南置賜郡の中堅青年会の講習も早余す処明日限りか。終り。

二月廿日 晴天 日曜 服部主計

午前八時ヨリ一校時加藤先生之講演。十時ヨリ十二時迄

二校時加藤先生講演。十一時半ヨリ短期講習生武道中食、一時半南置賜郡ノ中堅青年ガ写真ヲ取リテ修業式ヲ上テ短期講習生ガ家ニ歸リ。私等午後ヨリ休ミ、加藤先生ト共ニ武道ス。

二月廿一日 晴天 月曜 會田光雄

光陰矢の如しとは古人の金言だが、月日ノ早いのは今便〔更〕の如く感じた。最早当所に入所以来六十有日、謹嚴なる所長の下に有りて徹底せる御教訓を受け、至愚なる我輩も明確に山の山の奥山に光明の輝き居るを語〔悟〕つた。今後益々努力シ真剣に修養を怠たる事を自覚した。先生の肥料講話、午後より武道。

二月廿二日 晴天 火曜日 結城忠男

昨夜は月皎々として一片雲だに無き空に輝きし月、今は真赤な色を成して正に西山に没せんとしたり。身に沁む寒さは一方ならず、今朝の寒程寒き物より覺えたる事なかりき。裏ての道に出て小川にて顔を洗へおれば五時の時計は静かに響きぬ。道場にて掛声高く武道を為たる。

一時？ 所長殿よりの農学大意の御話あり。午後より武道を為事三時、其れ終りてより晩食為して九時に床につく。

二月二十三日 水曜日 晴天 大宮新左衛門
例に依つて例の如し。格別変化のない日だ。

二十四日 木曜日 曇 沼澤恵一

午前中は所長先生の有益なる殖民問題に付いて口話あり。午后よりは農事試験場の練習生新せんなる講堂に於て一場の話あり。生徒全部武道。扱て先日不幸のため帰省せられた山口君は未だに帰らない。如何なる事あるかと思へば同組の我々は実に心配で堪らん。了り。

晴 二十五日 金曜日 高瀬興農生

午前中は例の如く加藤所長の農村問題及び作物栽培の講義あり。午後よりは道場に願て所長審判の元に剣道の試合ひ、各自大に励つた。而かし第一回の試合よりははるかに上手に見えた。其れも練習の為めか。嗚呼一月日は

早いものだ。もう入所してから早や三ヶ月になんたす。思へば我等人生に二度来たらず、其の青年期、大いに励んでやらう。明日から実行するつもりだ。

二月二十六日 土曜日 服部主計

第一校時、加藤先生、農村之経営之講演有り。第二校時、加藤先生、作物栽培之講演有り。午後ヨリ村山会開キ、我等土曜日ニテ午後ヨリ休ミ。

二月廿八日 月曜日 天氣晴風 會田光雄

炊事二組、掃除四組。第一校時、加藤先生ヨリ地主ト小作問題ニ付講演。同二校時、作物栽培法ニ付講演有り。加藤先生午後四ニテ上京ス。高野先生帰り。午後ヨリ校内大掃除ス。

三月一日 火曜日 雲 結城忠男

薄雲る空をいぶかしげに金井役場にと講習生一同村内の研究に行きぬ。午前九時安着す。先づ五十嵐助役の案内にて二階に入り村長の御話をうけたまわる。午後三時よ

り一同は帰講し途中田中某の堆肥を見たり。又農事の話
を聞き風にあてられて四時に安着す。

三月二日 水曜日 晴 大宮新左衛門

先生は未だ見へられずして自修せし。十時より組合の話
を聞いた。午后柔道と撃剣の稽古して三時より入院の高
瀬君の所さ見舞に行く。うす暗い長い廊下を廻り廻りて
湿めつばい北病室の五畳間に閉ぢ込みて、隣りの九泉に
逝かんとあはれ苦しむ人のそば、大声も出せず憂さ憂さ
として居った。

三月三日 木曜日 沼澤恵一閣下

五時の鐘には楽しき夢も破られると共に目を開いた。階
段を下る音、便所の戸の開く音、下駄の音等は物淋しく
耳元二聞える。井戸辺には馬けつを手にする人もあり。
手拭を肩にして陽子〔楊子〕を口にする人もある。間も
なくにして炊事場では播鉢の音、料理をするまいたの
音等は賑にかすかに聞えて来る。道場では武道の掛声二
階の方ではがたんがたと掃除の音がする。嗚呼賑はし

き哉、寮の朝。

三月四日 晴天 山口勢太郎

所長さんは本日御帰りになられた。午前林業の沿革と目
下の急務の話聞く。午后地主対小作問題。附して米国
と独逸の現状、又現在の日本鉄事業の如き緊要なるに拘
はらず収支償はず、苦し。一旦事有らば如何に。非常な
る窮境に彷徨はしまいか。石油も又然り。此の秋に当り
我等の覚悟と。

三月五日 晴天 土曜日 服部主計

午前中一校時所長さんの農村経営有り。午後より一二三
四組実習、四五六武道す。東村山郡豊田村青年会の短期
講習員が午後より県庁見学、帰って武道す。午後四時よ
り聯隊の三浦中佐の講演有り。又午後より短期長期と共
に茶会を開きて又三浦中佐の日露戦争又現在の戦争の講
演り。

三月六日 晴天 日曜日 合田光雄

短期講習入所の為に日曜にても学科有り。午前八時より所長さんの農村経営にて講演有り。午後より四五六実習す、一二三武道。短期と共有り。短期生午後二時より見学有り。午後より山形農事試験場より当所に見学有り。六時にて夕食にて七時より目読〔黙読〕九時にて礼拝、終りて床に付く。

三月七日 雪降 月曜 結城忠男

午前中短期生加藤先生農村経営。長期生自読、午後より武道す。午後より帰省する者有り。

三月八日 火曜日 晴天 大宮新左衛門

休日になる。茲は日曜だから必ず休みとは限らぬ。午後所長殿、柏倉門伝村にお出なされた。五日からの短期生が今朝限りにもう荷物を車にした。南置賜の短期生に比べると、余程良かった。彼れ等には撃剣や柔道したのを見なかつたが、今度の人達は好んで相撲や撃剣をやつた。即ち豊田村の青年は猫目の如く開いたとすると、玉庭村は未だ旧式に細目になつて居る。

二月〔三月〕九日 水曜日 曇り時折細雨来る。沼澤恵一午前中は鈴木氏の講演。本日より市外金井村に於て短キ講習会あると云ふので、所長さんは午前中より御出なされ午後は一二三組は同地まで悪路ワザワザ行つて武道の稽古をやつた。青年仲々奮ふ。尚午前中は皇国運動を所長さんより習ふ。午後は風呂番。以上簡単了り。

二月〔三月〕十日 木 晴天 山口勢太郎

冷い冷い雪も二三日の天気で大部消え失せ、残りなく射す春の日いと長閑に水面を走り萌芽に急ぐ。木の間吹く春風に此の山形地もめつさり春めいて来た。午前県下の養鶏と長曾我部氏の産業の話、午後四五六組武道指南に金井村迄行く。他は実習と。

二月〔三月〕十一日 金 晴天 服部主計

午前一校時長沼君ヨリ山形歩兵三十二聯隊生活之御話有り。二校時江坂君ヨリ野砲兵生活之御話有り。午後ヨリ山形地方裁判二見学有り。加藤先生宮城県二上京有り。電気無く、目読〔黙読〕無し。

參月拾貳日 土曜 雪 會田光雄

日頃の春日和に今日は朝から悲しく春雨降り、いつになく舎内は寂寞を感じた。九時頃俄に寒気を催し、雨は大雪に化し、賑なりし往来も希に、村社の裏のこんもりと臙になり。只工業試験場の煙心細く黒く屋上にたなびきぬ。かく淋しき世界に午砲の響天に満みぬ。午後より休なれば午前に反し各室の音楽に、盛んなる議論に、いしか〔いつか?〕電灯の各自の顔を照しけり。学課午前有吉氏の憲法大意。

參月拾參日 日曜日 結城忠男

朝雲——八時頃より雨と成り、みぞれと変りぬ。家に帰りし物なるか、舎内に居る者は二拾数名のみ。一組一同済生館に入院中の朋友高瀬傳君の御病氣を一日も早く退院せられん事を神に誓ふ。午後より風あり。夜は静かに寝むるが如し。九時に礼拝? 終りて床に伏す。

三月十四日 月 雪 沼澤恵一

午前十時迄大掃除、十時より県会議事堂に於て廣部さん

の農具の講習会あり。一同皆行く。夜は風呂が建つ。

三月拾五日 火 雨天 山口勢太郎

本日も農事講習会に行く。講師の廣部達三氏は帝大で恩賜の時計を戴いた方で、曩に斯道研究の為三ヶ月間欧米に遊学した御仁と。農具は生産ヒの節減、労働能率の増進、並に分配に是非考究を要すと。

三月拾六日 水曜日 晴天 大宮新左衛門

本日で農具講習会了り。所長殿は本日帰へらる。而して夜茶話会。三日程の御土産話しに礼拝は十時半。

三月拾七日 木曜日 曇天 服部主計

一校時加藤先生農村経営御話シ。二校時肥料ノ御話シ、午前ヨリ一二三武道す。四五六実習。

三月拾八日 金曜日 晴天 五十嵐光雄

先生東置賜ノ講習会に行く。済生館入院中の舟越先生、本日退院す。午前中長曾下部〔長曾我部〕氏の講話。午

後より第二回雄弁会挙行、弁士ノ諸君、いづれも熱弁を振つて水の流るゝ如く聞聴者は感に打たれ謹聴ス。四時頃了ル。

三月拾九日 土曜日 結城忠男

晴れ? 窓よりさす日光は暖で心地よく感じた。午前八時より三十分高橋君の室で此の後、御互に理解のある交り結ばれん事を固く心の握手をした。其れより自室で論語を書き午後より休みなれば帰宅す。

三月二十日 雨 日曜 大宮新左衛門

本日は朝来よりの雨天なり。本日は日曜日なれば帰省する人多かつたので療内〔寮内〕は到つて静なり。

三月二十一日 月 雲午後雪 沼澤恵一

今日は春季皇霊祭なれば何処の家でも門口には万国旗を樹てゝ居る。唯如何なる訳あるのか自治コウシウシヨ療〔寮〕に於ては、祝の印がない。而し心中に於てはより以上祝うて居るのだらう。十九日帰省したる人々は午

后よりポツポツ帰つて来る。本日は朝は晴天なれ共午后の三時頃に到りて吹雪となる。実に寒かつた。

三月二十一日〔二十二日〕 晴天 山口勢太郎

午前所長さんより肥料の御話を承る。又本日宮城県下に御出張遊さるさうだと。午後武道。全部が日々真剣に勉めと。仲々思ふ通りに行かぬ。真剣も受動的では駄目だと衷心より感ず。

三月廿三日 晴天 水曜日 服部主計

午前中金井村研究、本日は秋田県知事之見学有りとて我等室内掃除ス。午後より農事試験所見学有り。九時ノ時計と共に礼拝をして床に付く。

三月二十四日 木 晴天 五十嵐光雄

寒気甚し。一天拭ふが如き青空に二三の星淋しく輝きぬ。遙か遠く東雲の曾をなし、茜に美し。かくも青々とした暁に市内は未だに寝静り、只我が講習所の武道の掛声賑に天に上りぬ。あざやかなる朝日柔き光を投げし頃、自

炊の御飯を食つて、あゝ実に此の講習所は浮世離れた気持ちの良いだ。午前中ハ先生の肥料の御話。午后より農事試験場生、先生の話聞に來た。一二三武道、四五六実習。默読時間には皆論語を書いて居るから実に静だ。

三月二十五日 金曜日 結城忠男

朝五時起床す。武道を為す。八時三十分より農事試験場生徒と共に加藤先生の御話を承まわる。十時より二時間武道を為す。午後より工業試験場の見学を為す。其れより柔道や擊劍を為す事二時間、五時夕食す。雪おちやまず。九時帰床す。

三月二十六日 土曜日 晴天 大宮新左衛門

春眠曉を覚へず。誰やらが云ひし如く、どうも朝起が余程の勇氣が入る。鐘がなる。眼を醒ます。朝晴の明りがカーテンを通して生々と充ち來つて居るけれど、寝心持が一層よく感づる。「君！起きよう！いざ」と一刀両断に跳ね起きねば袈の引力に打ち勝つ事が出来ぬ。暴風の天気予報ありしも左程の風でなかつた。午前誓の御

柱〔約二字空き〕の御話。午后休み。

三月二十七日 日 晴 正一位沼澤恵一大明神

今日は近日まれなる天気でしたので町の街道は乾きて小供等は輪快〔愉快〕そうに遊んで居る。今日は日曜日なので療内〔寮内〕は静かなれ共、町は一層にきやかでした。明日より中学校の試験なので小学校卒業くらいの子年〔少年〕は所々に見える。山形新聞社の前には昨日東京大火の広告があつた！

〔以下二行は赤鉛筆による書き込み〕

評 沼澤君の本日の日誌は出たらめですね。今少しく立派にかき給へ 「一紳士」

三月二十八日 雪天 寒し 山口勢太郎

昨日までの天気けろりと変り、芽生えんとせし木々に告げずに六の花を宿した。

『真当に今年は何時迄も何時までも雪が降って呉れた年だなァ——』と思はず呟く。

所長さんより在郷軍人と青年団及び地方自治の御話が

あつた。午后定期の大掃除。徹底的にとて昼からの時、四十名全部を費した。

三月二十九日 晴天 火曜日 服部主計

又々□□之冬となりました。校内掃除は二組、炊事は五組、一三四六武道。午前中は加藤先生之経済学、午後より武道、四時より加藤先生講演有り。七時より十時迄佐藤君之送別に付茶会有り。十時より礼拝して床に付く。

三月卅日 水曜日 晴天 會田光雄

よい天気だ。春春らしくなつた。みちがよい。往来がはげしい。きらきら光る自転車。幾台幾台もつゞいて行く。田舎のバーさん、大きい風呂敷包を背負ひ、みち端の石に腰を下してはなして居る。飴やが鈴をならしてあるく。その後から小供等が草履をはいて付いて行く。御祝儀のたんすが二台ならんで行く。黒犬が何か見つけて食つて居る。若い青年が赤毛の馬にのつて天馬□る如く走つて行く。巡査が剣を光らせ、いかめしくゐばつて行く。洗濯屋の庭一面真白き物にかざられ、そよ吹く風に舞ふて

居る。のどかなる日よ？ 論語書二時間十時迄、金井研究二時間正午まで、午後より一二三武道外農場実習。

四月一日 晴天 金曜日 結城忠男

朝五時起床す。直心影流の武道を為す事一時間、朝食は七時、八時より忠魂碑の参拝。其れより佐藤孫左衛門君の帰宅に正門まで弥栄を元氣よく叫んで御見送りした。学課は所長の犠牲的無き愛は□〔帰？〕すなどの御話で、其れより県技師横田先生の農林の改良。午後より一同食堂で写真をとる。其れより我れ等壺組は滝山に藁運びにて車を引いて行く。帰所は五時、其れより藁をすごいて晩食す。時は六時半。九時迄で論語を書く。湯に入つて床に伏す。

三月三十一日 晴天 木曜日 大宮新左衛門〔四月一日の後になっている〕

午前、所長先生より在郷軍人と青年団と題しましたお話を承はる。午後一二三組藁仕事、他は武道。夜は送別会、永澤地方指導が体の都合上寒気に堪へかねて、今度

東京に勞〔榮〕転なさる。戸主会の話に夜は更けて就床、十一時なり。

四月二日 土曜日 春霞 沼澤恵一

午前九時より所長さんの農村経営。今日は朝より色々注意を受ける。午后より休。嗚呼本日は土曜日なので午后より帰省する人もある。亦町を散歩する人もあつて療内〔寮内〕は五時頃迄は殆んど空になつて居る。夜は樂器の音にて愉快である。頓首。

四月三日 日曜日 高瀬傳

嗚呼しばらく自治寮を離れた僕、今日初めて帰寮した。処が突然ながら日誌当番の旨をはなされた。思ひ起せば先月二十七日よりか。数えて見れば長い月日を無意味に送つた様だ。而かし病ひなれば……。今後は眞面目にやらうと言ふ今日の覚悟。今日初めて自治寮に入ると何んとなく改たまつた様な感じに打たれた。其れも自分の理想信念が確固でないからであらう。今日から又健実〔堅実〕なる諸寮友と共に面白く楽しく眞面目にならう。こ

れを思えば何んと愉快だ。最早や所外も春気がさして来た。四囲風物、皆しかり。

四月四日 晴天 月 山口勢太郎

午前、所長さんより我が日本之農業の欠陥に付いて先日 of 続きを聞いた。後中館先生より自治制度。午後は定期の大掃除を爲した。三時より随意武柔道を練習した。

四月五日 晴天 火曜日 服部主計

午前中加藤先生農村経営之御話し有り。後林学之講演有り。午後より一、二、三、農場実習、四、五、六、校外掃除、五時半に終りた。列〔例〕の通りに礼拝終つて床に付く。

四月六日 晴天 水

諸蕪味噌汁、金井研究、先生の話。午后より市役所議事堂にて桑園栽培の話、三時頃より□〔稚?〕蚕所にて実地指導。

四月七日 木曜 雨天 結城忠男

五時起床、五組掃除、六組炊事、他は武道を為す。□□の姿は其処其処と見うける。午前中所長殿の経済学を教へる。其れより農村経営をおそわりぬ。午後より一組湯くみを出す。一二三組武道、四五六組実習、四時に終り。

四月八日 金曜日 雨天 大宮新左衛門

もう雪は来まいと思の外、しとしとと降る雨に湿々した雪混り来て、漸く暖みに馴れし身には一入の寒さを感じた。午後四五六組武道、一二三組藁仕事。先日より待ち詫びて居る高野農学士が今日から御出なさる筈なれども、御見へられず。明日を待つより外無之候。

敬具早々

四月九日 土曜日 晴 沼澤恵一

所長先生の農村経営、肥料の話あり。午后休みなれば帰省する人もある。

四月十日 日曜日 晴 沼澤笹舟生

今日は桃の節句で村人は田舎のおいしい餅を食べて町へと出かけて来たので、町中は一方ならぬ賑(賑)かでした。殊に激(劇)場の前は大分混雑を来して居つた。亦三日で市外山家の不動明様の祭礼なので若き男女は身を装いて橋の上を往来する。江坂先生は今日は日曜日なので左沢の方まで行かれて少しく体が具合悪いと云ふので今夜よりベツトの上に付。

評、なんとなく幼稚でやさしいな。〔この後、紙が破りとられている。〕

四月十一日 晴天 高瀬海底

午前中高野先生の話、後所長の農村経営、午後より大掃除後武道。

四月十二日 曇天 山口勢太郎

麗らかに晴れ渡りたるた「ママ」昨日の空に反して、今日朝からどんよりと曇つた空だ。午前は所長さんより農村経営の御話と高野先生の肥料学と。午後一二三組武道、

他は実習。

空は影でも自講生の心は晴々として居んだ。終りに〔約一字分空き、闕字か〕皇太子殿下の御安航を祈る。弥栄、々々、々々。

四月十四日〔十三日〕 水 晴

御天氣之良い日だ。いつまでもこの分で続けてくれればよい。青空高く小鳥さへすり。四方の山々鹿の子斑に天然の□景、心胆を奪れるばかりなり。午前農村経営に肥料。午後一二三実習、内一組、二十、十七、三四五六武道。夕食□、鯀、実にうまかつた。□秋田旅行及び開墾土に行く人をしらべた。

四月十四日 木曜日 晴天 服部主計

午前中金井村研究、後中館先生自治制度講演有り。午後ヨリ武道ス。午後七時之列車ニテ高野先生上京ス。七時ヨリ道□上ニテ加藤先生ノ武道ノ後話シ。九時三十分ヨリ札拝シテ床ニ付ク。

四月十五日 金曜日 結城忠男

午前中中堅自治制度の講話あり。横田先生の林学大意、午後よりは実習に武道を為す。夜は床に九時床につく。

四月十六日 土曜日 晴天 大宮新左衛門

午後七時議事堂出発、長澤則彦先生の話を開〔聞〕く事二時間半、帰へりしは十一時なり。各児室内にて札拝致して眠りに就く。

四月十七日 日曜日 晴 沼沢恵一

午前中は小平先生の御話、午后同。本日より炊事当番。随分いやだが、修養と思へば今朝は昨晚終わりしたため六時起床。

四月十八日 曇 山口勢太郎

朝武道のとき所長さんより高慢と人の前を飾る心は武道に依つて直せと。午前小平先生の地主对小作人に付いての御話、醒めよ地主、覚めよ小作人。

四月十九日 晴天無風 高瀬伝

午前一校時有吉先生の話し。第二校時、所長の農村経営の結論の講義なり。午後より一組四組武道、他は実習。秋田旅行の日程が発表された。三号室に於て夕飯後大いに有益なる話あり。一組の諸兄□。

嗚呼来る二十五日から旅行か。思えばなんとなく楽しい而かし軍旗□し。

四月廿日 晴天

午前中森川翁の話と植物学。午后我々舎外実習、薬師公園の桜花もそろそろ綻はんとす。薄暗き舎内にとかに籠るよりは外に出て労働を営む方勝しで居る。

四月廿一日 木曜日 晴天 服部生

午前中ハ中館先生自治制度ノ御話ナシ。後加藤先生植物生理ノ講演有り。午後ヨリ校外実習武道ス。実習ハ試験所ノ庭開墾ス。農場実習ス。

①

〔表紙〕

大正九年十二月起 日誌 第三組

〔本文〕

山形県立自治講習所 第六回講習生 第三組人名

北村山郡富並村 狩野正七

最上郡八向村 芳賀吉次郎

同郡同村 松田喜一郎

同郡安良城村 佐藤忠

飽海郡中平田村 成澤喜代太郎

同郡同村 森谷壮吾

同郡北平田村 五十嵐耕作

大正九年十二月廿七日更正人名 第三組

飽海郡中平田村 森谷壮吾

同郡同村 成澤喜代太郎

同郡上田村 菅原亮太郎

同郡北平田村 五十嵐耕作

最上郡安良城村 佐藤忠

西置賜郡添川村 新野貞輔

飽海郡内郷村 遠田三次郎

大正九年拾貳月拾四日入所 記者 佐藤
体格検査 人物試験等終り、講習生全部 五組ニ区分ス。
第三組即前期ノ如シ。

同十五日 水曜 佐藤

午前十時ヨリ入所式挙行、来賓、有吉学務課長、長澤地方指導、阿部養徳園長、並ニ各位、

町村吏員、父兄等。加藤所長殿ノ開式ノ辞。有吉課長殿訓示、養徳園長殿祝辞等。講習生総代答辞、年長 佐藤忠。

午前拾壹時半閉式。夜茶話会、先生御談ヲ承ル。

同十六日 木曜 佐藤

今朝ヨリ五時起床、九時臥床ニ決ス。朝食前講堂ニテ一同礼拝。勅語奉読、毎朝一人ツットス。朝武道練習ヲ受

ク。夕食後二時間ノ黙読トシ九時臥床ト決ス。以上本日ヨリ実行セリ。

同十七日 金曜 佐藤

定時起床、各室掃除、礼拝、朝食後武道、午後ヨリ農業実習^{モツコ}奮作リス。

同十八日 土曜 佐藤

定時起床、武道、礼拝。午前柔道、狩野正七君帰郷。午後ヨリ休ミ。

同十九日 日曜 佐藤

定時起床、武道、礼拝。食後休ミ、狩野君夕刻帰所。

同廿日 月曜 佐藤

定時起床、武道、礼拝、朝食、一同大掃除、加藤先生ヨリ農村経営各課。中館理事官ヨリ自治行政ニ就テ学課。船越先生ヨリ習字、各自筆ノ勅語提出。夕食後道場ニテ加藤先生ノ御親友高野一司先生、目下北海道居留ノ由ニ

テ、内地旅行帰途講習所へ御立寄り精心〔精神〕修養上御談、且ツハ北海道ミヤゲノ話ヲ懇々御話シニ預リ。我等講習生ハ常ニ面白ク且愉快ニ承リタリ。乞ヒ願ハクハ先生ノ御健康ヲ祈ルノデアル。茶話会ヲ終リ、礼拝、後風呂ニ入り就眠。

同廿一日 火曜 松田

定時起床、朝ノ行事、前日ト同ジ。七時初業、加藤先生ノ農学大要、其ノ内ノ肥料ヲ習フ。肥料ヲ施ス理由及植物ノ必要ナル成分等ヲ課セラル。十時ヨリ昨夜我々ニ対シテ講話セシ高野先生、都合ノ為午後二出発ノ由ナルニ付、講堂ニ於テ北海道ノ人生觀ヲ講話セラル。午後武道ヲ行フ。

同廿二日 水曜 松田

朝行事同ジ。午前七時半ヨリ九時半マデ金井村役場ノ助役ニテ当講習所一期講習生五十嵐君来リテ当村ノ研究ト題シテ学課ヲ為ス。十時ヨリ十二時マデ加藤先生ノ農村経営ニツキ学課。我々ハ絶対戦ニ達スルニハカナラズヤ

其ノ間ニ種々ノ生命ヲミトメナケレバナラナイ。村及国家、之ナリト。午後武道ヲ為ス。然シテタヨリ柔道、希望ノモノニテ為ス。

同廿三日 木曜 天候晴 佐藤

定時起床、掃除等当番ノ責任ヲ果ス。定時礼拝、勅語奉読、天皇陛下弥栄三唱。午前各課舟越先生ヨリ習字、学務課有吉先生ヨリ憲法講義、産業主事長曾我部先生ノ産業組合、昼食午后一時半ナリキ。午後武道。午後定時ノ九時礼拝即座ニ加藤先生ヨリ黙読時間ニハ必ず真剣ニテ黙読ナスベキ旨教訓ヲ賜エリ。

十二月廿四日 金曜 曇り少雪 佐藤

朝武道、礼拝、午前講堂ニテ加藤先生ノ直心影流ノ御話アリ（県技師横田先生林学大意）都合繰延。午前十時ヨリ体格検査、午后二時ヨリ横田先生ノ林学大意、三時ヨリ武道、夕食后講習生各部担任幹事選挙、講堂ニテ開会。先ツ人名ノ記憶不詳、依テ各自住所姓名ヲ唱へ其上選挙ニウツル。開票ノ結果

長沼君、芳賀君、笹原君、安達君、近野君、松田君（時郎）、大宮君、新野君、松原君、佐藤君、以上十名当選。礼拝ヲ終リ眠リニ入ル。

十二月廿五日 土曜 晴 佐藤

定時起床、武道礼拝、食後八時ヨリ船越先生ノ習字、拾時ヨリ加藤先生農村経営講話。後道場ニテ昨夜選挙セシ幹事ノ分担、各自ニ加藤先生ヨ〔ヨリ?〕御指定。結果

衛生部近野道弘、杉原直樹、風規〔風紀〕部大宮新左衛門、長沼謙造、文芸部安達増三、松田時郎、武道部芳賀吉次郎、笹原俊男、会計部新野貞明、佐藤忠、以上。

十二月廿六日 日曜 曇 佐藤

定時起床、昨日帰省者多数ノ為、朝武道人数少ク、例ニ依礼拝。食後各自目差処、即兵営ヤラ親族訪問ヤラ。昼食ノ時自分一人ナリキ。夕食後本年モ最早過キナントスルニアタリ忘年会開催ニ付、幹事委員一同道場ニ集会付議ス。狩野君夕食後帰所。廿九日ヨリ年末年始休業。サ

レハ廿七日夜ニ決ス。礼拝就眠。

十二月廿七日 月曜 曇 佐藤

定時起床、本日ヨリ本組炊事当番、例刻ニ礼拝。君代再唱、勅語奉読、食後八時ヨリ加藤先生農村経営、理事官中館先生自治行政、午后大掃除終リ室替ノ上組分ケモ更正ス。結果、

第三組、森谷君、成澤君、菅原君、五十嵐君、遠田君、新野君、佐藤ノ七名二期ス。午后六時ヨリ道場ニテ忘年会晩食ヲ省略シ、一人スシ一包、菓子一封ツ。松田幹事之開会ノ辞ニ始マリ舟越先生ノ訓話、加藤先生風氣ノ為例席ナキヲ遺憾トス。夫レヨリ各自講演カクシゲー、組団体興興〔余興〕等有リテ非常盛會ニテ閉會之辞ニ会ヲ閉ツ。直ニ礼拝就眠。

明日ヨリ左記順番ニ依リ各自記入アラン事望ム。

佐藤、新野、五十嵐、菅原、成澤、森谷、遠田、以上。

十二月廿八日 火曜 雪 新野

定時起床水事〔炊事〕当番ニテ直チニ其ノ職ニ付ク。食

事八時ヨリ十時近ク迄舟越先生ノ習字、十時ヨリ加藤先生ノ休暇中ノ心得ヲ拝聴ス。後農村経営ニテ大日本帝國ハ神國ナリノ講話アリ。中食後当組ニテ佐藤、新野ノ外婦省、学科武道休ミ、明日ハ数名ヲ残スノ外、全部婦省ナスベシト思ハル。九時礼拝就床。明日ヨリ大正十年一月三日迄年末年始ノ休暇。

大正十年一月四日 火曜 曇り 菅原

三日午後二ハポツポツ帰り初メタ。今朝二ハ約三十名ダツタ。第三組ハ炊事当番ニテ一同炊事ニ取り掛ツタ。八時ヨリ十時頃マデ習字、舟越先生御出アリタリ。十時ヨリ正午迄武道、本年最初ノ武道トテ非常ニ愉快ナリキ。午後ハ実習ニテ藁運搬炊事場掃除又ハ大掃除。大根、蕪菁收穫ニ行クモノ夫々其各方面ニ働キタリ。朝ニ、本夕食後ヨリ大々的の新年会開クベキ旨発表アリシカド、加藤先生御不在ノタメニ延期トナリタル旨御話アリ。例ノ如ク二七時ヨリ黙読、九時礼拝後ニ各自就床セリ。

一月五日 水曜 曇り 成澤

定時起床、我が第三組は炊事当番にて、直ちに其の職に付く。朝食後しばらく休み、九時頃より一寸の間舟越先生の習字。後五十嵐講師の（金井村研究）講話ありたり、昼食後加藤先生の御話農村経営に付いて、後希望の人は柔道武道を為したり。本日は風呂立て日に相当り、休暇後として最初なれば、火たき場に水□釜に氷つて頗る難儀したり。五十嵐耕作君、七時半帰寮す。新年会も加藤先生の都合上九日の晩に決す。例の如く七時より黙読九時礼拝就寝す。

一月六日 木曜 曇 森谷

朝五時の時計を合図に我劣らすと床を離れ我が三組は例の如く炊事の任務に取掛りたり。朝食后暫く休ミ午前十時中館講師御出になりて自治制に関し結論より総論に亘りて御話ありたり。中食後武道実習の二ツに別れ、各々其の任に注意を尽せり。例により七時より黙読。九時礼拝就寝。本日より五日間加藤船越両先生は置賜短期講習に出張せられたり。

一月七日 金曜 晴 遠田

朝定時起床、冷水浴ヲヤツテ直チニ炊事ニ取カ、ル。七時食事、八時ヨリ十時迄デ習字。朕惟我皇祖皇ノ六字ヲ清書シテ出ス。又新年試筆ヲ講堂ニハツタ。十時ヨリハ中館先生ノ講話アリ。午後ハ自習ヲヤツテ居ル内、加藤先生ガ上ノ山ノ講習会ヨリ来ラレテ農村経営ノ講話ヲヤラレタ。三時半ヨリ武道、我ガ三組ハ炊事ニカ、ツタ。然シテ半分ハ農場ニ野菜取りニ行ツテ大根ヲカツイデ来タ。五時半食事、七時ヨリ黙読、八時礼拝終リ一同寝ニ就ク。

一月八日 土曜日 晴 佐藤

定時起床、我三組炊事当番ナレハ各自手ヲ別ケ食事準備、漸ク終リ、火入レニ寄集リテ談話中積ラザル戯レ居ルヲ加藤先生ノ御目ニフレ、何共面目モ無キ次第ナリ。定時講堂ニ集リ君力代再唱、勅語奉読、礼拝終。朝飯後習字、長曾我部先生ノ産業組合ノ講習終リ、昼飯後、午後ヨリ休ミナレバ各自外出、午后四時ヨリ夕食ノ準備ニ取掛リ、定時夕食。明日ヨリ四組炊事当番ナレハ、四組ニ引続ギ

一同一室ニ集リテ慰勞ノ寸志トシテ茶話ヲ催ス。炊事当番中一回モ熊飯及半中米飯モ出来セズ、大ニ満足ノ体ニテ雑談ニツケリ。只遺憾ナルハ、今朝先生ノ御目ニフレタルヲ、是モ修養ノ足ラザルヲ、一同大ニ後悔スルニ余リ有り。散会定時礼拝、眠リニ就ク。

一月九日 日曜日 曇時々雪 新野

定時起床、今朝カラ武道、久々ニテ朝ノ武道。寒氣甚ダシ。定時食事、日曜ニ付各自外出スル者モ帰省スルモノモアリ。高橋君ガ上ノ山ニ行カル。午后カラモ外出スル者アリタリ。夕方ソロソロ帰所スル者多シ。定時食事、七時四十分ヨリ勉強時間、九時礼拝シ眠リニ付ク。今日ハ樂シキ安息デーナリ。

一月十日 月曜日 晴 五十嵐

朝ハ定時間ニ起床シテ朝ハ武道、寒氣甚シキ。舟越先生ヨリ教授サレタル。ソレニ加藤先生並先生ノ友人ノ鹿子木先生〔狩野先生〕と書いてから消してある〕ノ兩人參觀サレタル。朝食前講堂ニテ国歌ヲ歌イ勅語ヲ奉読ス。

午前八時四十分ヨリ加藤先生ノ農村経営。同十時ヨリ鹿子木先生ヨリ有益ナル御話ヲ聞キ中飯後大掃除ナリ。三組ハ下廊〔廊下〕デ立派ニ出来、三時卅五分武道デタ飯後ハ目読〔黙読〕ナリ。確定時間ニ礼拝ヲシテ後ハ明日マテ一生懸命ニ眠リニ就キ。

一月十一日 火曜日 晴 菅原

起床ノ鐘ニ暖タカイ床ヲ蹴ツテ武道ニ出タ。法定ノ一本目ヲ練習シタ。午前中ハ習字ヲヤツタ。宗国肇宏遠樹ノ清書ヲ出シタ。午後ハ藁細具ノ実習ヲヤツタ。先生ノ御話ニ依ルト加藤先生ハ風邪ノタメニ御不快ノ由ニテ医療ヲ受ケサセラレ居ル事。誠ニ吾々ハ先生ノ御病氣ノ一日モ早ク御快癒ノ程、祈万禱スル次第デアル。掲示板ニ楽器時間ノ注意アリタリ。七時ヨリ黙読、九時礼拝、就床セリ。

一月十二日 水曜日 降雪 午后晴 成澤

朝定時起床武道、食後は五十嵐政次郎氏の金井村研究、十時ヨリ本県蚕業技師荒木氏の桑樹栽培の御話ありたり。

昼食後は三五六組は武道にて、後柔道す。入浴をすまして夕食を食ふ。七時ヨリ黙読九時礼拝就寝したり。

一月十三日 木曜日 曇 森谷

五時起床、第三組掃除番ニテ各自其任ニ付キ、七時例ノ如ク君が代勅語ノ奉読ヲ終へ、朝食後本県公有林野ノ現況ニ付イテ吉野技師講演アリ。長曾我部講師ノ産業組合ノ目的ニ付キ講演アリ。昼食后武道実習ノ二ツニ別レ我等ハ実習ニテ縄綱草履作り等致シ、午后四時ヨリ柔道撃劍等致シ、六時夕食、七時ヨリ黙読、九時礼拝、就眠ス。

一月十四日 金曜日 雪 遠田

五時起床、武道、七時礼拝終リ。朝食八時ヨリ十時迄習字、十時ヨリ中館先生ノ自治行政ノ講話アリ。拾貳時十分退場ノ際船越先生ヨリ午後一時ヨリ県会議事堂ニ於テ山崎先生ノ講話アリ、早速食事ヲシテ行ク様ニトノ事ニ、我等農民ニ対シ農道ノ鼓吹者トシテ天下ニ有名ナル先生ノ御話シヲ承ルハ我等ノ幸福ナレバ喜ビニ堪エズ。生味噌ノ御馳走殊ノ外美味ク食ベテ十二時四十分議事堂ニ一

同集マツタ。一時ヨリ農商務省ノ渡邊先生ノ農業経営ニ就イテ有益ナ講話アリ。三時五十分ヨリ山崎先生ガ農村之自覺ト題シテ熱心ニ御話シ被下タ。七時半食事終リ默読九時礼拝終リ就眠シタ。

一月十五日 土曜日 曇 佐藤

定時起床、武道ヲ終リ礼拝。朝食ヲ済シ本日ハ十五日ニ相当スルヲ以テ官祭山形招魂社ニ講習生一同参拝、社前に於テ身ヲ精〔清〕メ礼拝、思ラク、吾等入所當時加藤先生曰ク一日十五日ニハ以前ヨリ各神社へ参拝スベキ趣キ御話シニ預リ、漸々本日ハ第一回目ノ参拝ナルニ、先生数日前ヨリ御不快ニテ御先導不為ノ止ム無キヲ、一同誠ニ痛心ニ感ジタルベシ。礼拝終リテ帰所、直農商務省ヨリ搬送セラレタル県主催町村農会講習会渡阿講師、当所ニ御出デ、我等講習生ニ対シ農業労働問題ト題シ御講話。終リニ勤儉貯蓄一端ヲ拝聴シ、午前十時終リテ県会議事堂ニ於ケル前記講習会ニ一同出席聴講。昼飯ハ食バン十五銭価値ニテ過シ、午后ヨリハ各町村農会ノ研究会ナレハ、聴講随意タルベキ旨ニ依リ、帰所スルモ止リテ承

ルモアリキ。定時夕食礼拝ヲ終リテ各自床ニ入ル。

一月十六日 日曜日 曇時二雨 新野

昨日は土曜日なれば今朝左程のつかれもなき考へなれど、起床の鈴を聞えざるもの多し。栄坂〔江坂〕さんに「君々、何処が悪いんですか」と呼び起されたる者あり。直ちに武道、最上郡の出身中川君、講習所来所なされたれば武道を一共さる。朝食後思ひ思ひの外出から音楽をやるものもあり。音楽は土曜日の午後と日曜の外はせぬ様に風紀係より示されたれば、腫物の一時に破れたるの感あり。帰宅せざるものは午前中外出甚だ少なし。午后からは余程外出す。何の目的やら県会議事堂の町村農会研究会に行く者もあり。理髪店に走り込む者もあり。全生徒は面白く暮し又大いに感ずる者もあるべし。明日からは大いにやるべし也。八時半記す。

一月十七日 晴 五十嵐

定期ノ時間ニ起床シ武道練習ハ九時より、習字拾時より、有古学務課長ノ話シ、憲法習フ。中飯後ハ大掃知〔除〕、

二組自治寮、講堂其ノ他ヲ掃出ス出来揚ノ後ハ講習生一同ニテ第一回直心影流の応用撃剣ノ仕合会ヲ開催セリ。氣ニ打タレテ暗闇ニ致ル迄。会散〔散会〕後直ク時計ヲ見レバ最早六時半になんた働キ居レリ。夕食ヲスマシ八時ヨリ目読〔黙読〕ヲシ定期ニ礼拝ヲシテ寢就ス。

一月十八日 火曜 晴 菅原

本日ハ朝ニ寮内ノ掃除、八時ヨリ習字、十時ヨリ長曾我部先生ノ産業組合、午後一時半ヨリ第一日弁論会開催、一組ヨリ二名ヅツノ話当番者ヲ出選シ又有志三名バカリ当番者ハ色々各自の演題ニ依リテ論ジ、最後ニ江坂氏ノ硫化炭素の米質ニ対シ有益ナル御話アリ。閉会シタルハ六時ナリ。黙読九時礼拝就床。

一月十九日 水曜日 晴 成沢

朝ハ武道ニテ取り分ケ今朝ハ寒サヲ感じタリ。八時ヨリ五十嵐氏ノ金井村研究後、加藤先生ノ御話アリ。明二十日ヨリ開ル、教員ノ短期講習会ニ付、生徒ノ心得等。終ツテ大掃除ヲ行フ。而シテ昼食、午后ヨリハ柔道ノ試合

第一回ヲ挙行シタリ。業ハ未ダ未熟ナレドモ生徒一同真劍ニテ一貫シタレバ加藤先生モ少シク満足ノ色顯ハレタリ。五時終ヘタリ。間モナク第三組一同、第十号室ニ集リテ相互ノ心得ヲ佐藤委員ヨリ心付カレ一同大イニ緊張シ、先生ノ御話ニ肯〔背〕カザラン事ヲ固ク誓ヒタリ。七時夕食。今晚ヨリ各室ニ一人ヅ、先生方ノ交ル事トナリ教育者タル人ニ朝夕親シク接スルヲ得、僅々二週間トハ雖モ大イニ美化サルベク喜ンデ迎ヘタル次第ナリ。食後スグ黙読九時礼拝、心地ヨク就寢シタリ。

一月二十日 木曜日 雨 森谷

朝五時起床、小学校教員方ノ吾等ヨリモ早カリシハ吾等ノ辱スベキ所ナリキ。五時半ヨリ武道諸先生方ハ見学トシテ出場セラレタリ。朝食后加藤先生ノ御話農村経営ノ一端、森川源三郎翁ノ御話等致サレタリ。十時ヨリ武道、十二時午食本日ヨリパンノ中食トナス。午後武道実習ノ二ツニ別レ吾等ハ実習ニテ草履作り縄綱等致シタリ。定時黙読礼拝就寢ス。

一月二十一日 金曜 雨 遠田

定時起床、武道、今朝ヨリ先生方モ参加サレタ。七時礼拝終ニ食事、八時ヨリ女子師範学校長ノ講話、先生方ト共ニ承ル。拾時ヨリ横田先生ノ林学ノ講話、昼食後直チニ養徳園視察ニ行ツタ。養徳園生活ハ講習所生活ト相似タ点ガ多イノデ少カラズ快感ヲ覚ヘタ。六時食事、七時ヨリ黙読、九時礼拝終リ就寝シタリ。

一月廿二日 土曜 曇 佐藤

定時起床、武道、礼拝、朝食終午前八時ヨリ午后迄男子師範校長ノ実業補習学校ニ対スル講演アリキ。昼食（ばん）終リテ午後ヨリ短期生ハ小白川ナル製紙工場見学、我カ長期生ハ江坂書記先導ノ基ニ煙草専売支局見学、門内ニテ受付ヲ経、内部ニ入ルヤ先ヅ工場ニ於ケル大略ノ説明ヲ受ケ、各人二列ニテ各工場室内順次見学、其機械ノ完備ト巧妙且技術ノ熟練ナルヲ驚嘆セザルベカラズ。一同最モ目ヲ引クハ各職工ノ分業秩序精然（整然）タルヲ感ズ。視察ノ時間一時間ニテ同所ヲ去リ、各自自由帰所。本日講習生ニ対スル県補助金計壹百弍円弍拾弍銭。郵便

貯金ニ預入（佐藤忠名義）夕食後土曜日ナレバ黙読時間ナク定時礼拝就眠。

一月廿三日 午前雪 午后晴 日曜日 新野

定時起床、掃除番にて直ちに道場に行く。雑布の不足には閉口す。大掃除の節には拾七八枚も有りし雑布、何処に行きしか。雑布に足ありとは初めて也。食後は男子師範の校長、実業補習学校に関する講演。十時より午后の一時半迄。女子師範学校の校長、世界を支配する五大民族と題をなして思想問題を力説さる。中食はパン。食後には旭座の雄弁大会にといそぐ者に、書店へと足を向ける者に、道場にて柔道をなす者。各自目的に向つて大切な時間を用ひたるなるべし。短期講習生も思ひ思ひに外出す。今日の半日を有意義に消極的でなく積極的に活用せしなるべし。夕食前入浴して自習をなし九時消灯。

一月廿四日 月曜日 雲 五十嵐

朝五時ニ起床、武道、礼拝、午前八時ヨリ十一時迄加藤所長ノ農村経営、午后ヨリ農事試験場視学（見学）、蔬

菜、桑園稲化研究談ヲ聞キ、帰寮自由ナリ。夕食後ハ黙読、九時礼拝終リ。

一月廿五日 火曜 晴 菅原

朝武道礼拝八時ヨリ正午マデ加藤先生ノ農村経営、午后ハ実習、三組ハ四名農場ヨリ大根及ビ里芋ヲ運搬セリ。三名ハ下肥汲ミ取り、是ヲ堆肥ノ上ニ撒布セリ。本晚県会議事堂ニ於テ山形男子師範校長ノ手ト教育ノ講演アリ。有志ノモノ聴講ニ行キ八時迄帰寮セリ。入浴黙読九時礼拝就床セリ。

一月二十六日 水曜 曇天 成沢

朝ハ武道。正七時朝食。八時ヨリ九時迄五十嵐政次郎氏ノ金井村研究（農会）、十一時迄長澤地方指導ノ自治講習所ノ主義精神ニ対スル話トイフ題ノ御話アリ。十二時迄ハ加藤先生ノ御話（農業）アリタリ。午后ハ加藤先生ノ御話。午前ノ続二時ヨリ舟越先生ノ武道、四時止ム後ハ自由ニシテ擊劍柔道等様（様々）ナリ。夕食後ハ黙読礼拝就床、前日ニ同ジ。

一月二十七日 木曜 晴 森谷

定時起床、武道、朝食后十時迄武道、十時より正午迄長曾我部講師の産業組合。加入脱退、組合員権利義務、組合資金等に付き講演ありたり。終りて昼食、午後加藤所長殿の地主対小作人関係に付ての講話、三時より道場にて同先生の武道に關しての御話ありたり。午後五時半夕食、定時黙読、礼拝、就寝、終り。

一月二十八日 金曜 晴 遠田

五時起床、朝武道、七時礼拝、食事、八時ヨ（ヨリ）加藤先生ノ人間善惡標準及ビ真ノ農人、明治三老農ノ一人船津傳次平翁御話シ、十一時清水先生、群馬県ヨリ御出ラデニナラレテ農村経営ノ御話シヲ致サレタ。清水先生ハ三十年来自分ノ村及ビ家ヲ共同組織ニシテ経営シテ居ラレル実地家デ、我々ニ取りテハ少カラズ親ミヲ以テ聞クコトガ出来ル。七時ヨリ茶話会アリテ清水先生ノ経営談ヲ聞キ、一同大イニ感動シ有意義ニ今回ノ茶話会ヲ終ヘタ。其レヨリ直チニ礼拝就寝。

一月廿九日 土曜 曇 佐藤

定時起床、我三組掃組〔掃除〕当番ヲ為シ定時礼拝朝飯ヲ済シ、八時半ヨリ拾時半迄加藤先生ノ農村経営ノ科目ニ於テ明治ノ三老農ノ一人タル中村直三氏事績〔事績〕並ニ加藤先生朝鮮視察旅日記ヨリ朝鮮亡国感想談等承リ終リ、昨日以來産業組合講師トシテ聘レタル天下秀才清水氏ノ産業組合。昼食後モ引続ギ三時迄講演。終リテ本日師範学校武道試合ニ觀覽トシテ出會、当所ヲ表現セル笹原君擊劍、佐藤君ノ柔道、何レモ優勝ヲ得意氣揚々トシテ当所ニ引上ク。時ニ午後六時。夕食後道場ニ於テ古今ノ忠臣九州肥後菊地氏、廿四代二巨ル忠義ノ龜鑑幻灯ニ写シ、長澤指導之説明ヲ受ケ始メテ菊地氏之永代ノ忠列ナリシヲ承ル。午后十時閉會後礼拝就眠。

一月三十日 日曜日 晴 新野

朝ハ例ノ如クニ武道ヲナシ八時ヨリ加藤先生ノ農村経営、明治ノ老農ニ付キ講演アリ。十時ヨリハ清水先生ノ産業組合、群馬県ノ清水先生ノ組合ノ農業経営ヨリ秋田県ニ於ケル農業経営ノ話ヲサル。午后カラハ休ミ、武徳殿ノ

武道ノ試合ニ行ク人アリ。今夜ハ入浴ニ付風呂立テヲナス。會計係ハ一月三日ヨリ十九日迄ノ會計決算ヲナス。

一月卅一日 月 雪 五十嵐

朝ハ五時起床シ五時三十分ヨリ六時三十分迄武道、礼拝、終リテ朝飯ナリ。短期生ハ最初デ長期生ハ後食セリ。九時ヨリ正午迄清水先生ヨリ農家々計ノ確立、惡習ノ改善、健康ノ保持、指定教育方針ノ確立、大切要件ヲ聴キ、午后ヨリモ引続ギ四時迄聴キ、後ハ自由デ夕飯ハ六時ナリ。七時ヨリ九時迄黙読ナリ。九時打チタカ否ヤ礼拝ヲシテ各々無雅無夢ニナツテ寝リニ就ク。

二月一日 火曜日 晴 菅原

五時起床、武道ヲ終ヘテ礼拝朝食、八時半ヨリ清水先生ノ有益ナル産業組合ノ御講話アリ。十一時ヨリ午後一時マデ加藤先生ノ農村経営アリ。午後三時頃ヨリ加藤先生ノ御話ノ続キ。四時過ギニ御話終ヘテ夕食後入浴黙読礼拝就床セリ。咽喉ヲ害サレタルモノ多シ。

二月二日 水曜日 雨 午后晴 成澤

五時起床武道君が代勅語奉読終リテ朝食、八時半ヨリ九時半マデ加藤先生ノ御話、精神問題、実習ノ形式ノ内ノ武道ト読書、九時半ヨリ十一時マデ清水先生ノ御話、十一時ヨリ短期講習ノ修了式ノタメ生徒ハ休。十二時デ一同食堂ニテ会食ス。加藤先生モ清水先生モ臨マレタリ。午后ハ一月分ノ食費ヲ會計係ニ托ヒ、講堂ノ黑板ニ掲ゲラレタ米生産費調査ヲ記ス。自治寮ノ黑板ニ三日ヨリ六日迄四日間休ヲ命ズト記サレ、生徒ノ中ニハ帰ルモノモアリタルモ、我三組ハ誰モ帰ラズ。各室ニアリテ読書複習〔復習〕等ス。佐藤君ト新野君ハ會計ノ忙シサニ忙殺サレタ飯モ食ハズ、一同大イニ感謝スル所ナリ。夜ハ黙読ナシ九時礼拝、江坂先生ノ米生費〔生産費〕調査ノ説明アル。而シテ就寝セリ。

一月〔二月〕三日 木曜日 曇 森谷

定時起床。今日カラ休ミノ事トテ、有志武道ノ鐘カ鳴ツタ。起床甚〔直〕チニ帰郷スルモノモ余程見受タ。武道ニ出タ人ハ僅カ六七名ノミ。朝食后又々帰ル者多イ。吾

等ハ午前ニ少シ勉強シ昼食后一寸外出致シ帰寮シタル処、余リノ静カナルニ何トナク寂シク感シタ。夕食后各自室ニ於テ読書又ハ談話スル者アリ。九時礼拝就寝。

一月〔二月〕四日 金曜日 快晴 菅原

五時起床、本日ハ帰郷セザルモノ九名アリ。感冒ノ患者モ初メハ多数アリシガ、今ハ僕一人デアツタ。他ノ方々ハ武道礼拝後各自室ニ於テ勉強セリ。天宮快々晴レ渡リ散策ノ氣ヲソ、ル事ナリシガ遺憾、床ヨリ起ル事能ハザリキ。午後モ同ジク勉強スルモノ外出スルモノ種々ナリキ。九時礼拝就床セリト。

一月〔二月〕五日 土曜日 晴天 菅原

今朝ノ空氣ノ冷タキコト本年稀ナルモノデアツタ。五時ニテ起床、武道ニ出テ朝拝後前日ノ如ク二一日ヲ終ル。夕食後県立図書館ニ於テ論語講義アリ。三四名聴キ二行キ八時半ニ帰校セリ。九時ニテ礼拝各自床ニ就キタリ。

一月〔二月〕六日 日曜 雲 菅原

起床ノ鐘ハ夢ク掃除礼拝、朝食後ニハ前日通りニ勉強外出思ヒ思ヒデアツタ。江坂先生ハ本日午前□〔○?〕時頃ニ御帰校ノ由承ハル。僕モ漸ク床ヲ離ル、二到ツタガ未ダ咽喉ノ具合本当ナラズ。本校ニハ一人ノ感冒者ナカツタ。午後ヨリポツポツ帰校サレルモノモ見エタリ。夕食時ニハ十七、八名ナリ。七時ニテ黙読九時礼拝ヲ了シテ就床シタリ。

一月〔二月〕七日 月曜 晴 佐藤

定時起床振鈴合図ニ武道場ニ進ム。生等大半風邪ニ犯カザレ欠席スルモノ甚ダ大〔多〕シ、武道ヲ終エテ礼拝、朝食後講堂ニテ加藤先生ヨリ本日ヨリ師範学校ニ開催ノスキー講習会ニ趣キ練習スベキ旨達示ヲ受ク。出会スルモノ少シ。吾三組ヨリ森谷、成澤、遠田ノ三氏ノミ、他ハ風邪ノ為メ欠席、残りテ事務室整理執行ス。午後四時スキー練習隊帰所、夕食後黙読礼拝ヲ終リ各自床ニ就ク。

一月〔二月〕八日 水曜日〔火曜日〕 晴 新野

定時起床、定時より武道、大半風邪にて欠席す。佐藤、

新野、見学して六時に終る。七時十分前に礼拝、君か代再唱、勅語奉読して食事。九時より馬見ヶ崎にてスキー講習にて、森谷、成澤、遠田、五十嵐の四君出席す。其の他は引き込みて勉強す。六時夕食、黙読して九時礼拝、消灯。明日は五時半起床にて武道なしに室内大掃除の由、江坂先生より達しらる。

二月九日 水曜日 雲 五十嵐

朝五時三十分起床、スキーノ被勞〔疲勞〕ニ付武道ナス。礼拝。朝飯ノ八時三十分マデ馬見崎ニ集合シ、九時ヨリ双月山ニ行キテスキーノ講習ヲ受ケタル、本組ヨリ森谷君、成澤君、遠田君、五十嵐君、四名ナリ。午后ヨリハ双月山ヲ廻転ス。実ニ難儀ヲ蒙リタリ。帰寮ハ同三時、後ハ自由。夕食後入浴。七時ヨリ九時迄黙読礼拝睡眠ス。

二月十日 木曜日 晴 菅原

昨日のスキー練習の猛烈さに一同非常に被勞〔疲勞〕を感じたるを以て、本朝の武道ははぶかれたり。礼拝後食事、八時半に又出発されたり。本日は午後第二時県立農

事試験場の見習生、技手引率のもとに十余名加藤先生御講話拝聴のために来れり。風邪患者十名ばかりも御話を承はる（労力分配ニ関スル御話）。三時にはスキーの連衆（連中）も威風堂々顔日に焼けていかにも□〔楽?〕もしくは黒々と東北男子の意気を見せて居る。此の頃には試験場の生徒等は帰られたり。其後二度び一同に対して労力分配に関する御話あり。先生及高橋君、金君は八代海軍大將及び山田先生の御出を願ふためにわざわざ上京せらる（本日午後七時過ぎ汽車で）。入湯黙読、九時礼拝して就床せり。

二月十一日 金曜日 晴天 成沢

五時起床、スキー練習ノ被勞（疲勞）ノ為武道ハナキモ、第三組ハ掃除当番ニテ掃除ヲ成セリ。五十嵐君、佐藤君、新野君ノ三名ハ午前六時ノ汽車ニテ帰省サレタリ。朝食後間モナク県庁ニイス取りニ行。九時半スキー練習場ニ向ツテ出発ス（菅原君ハ不快ノ為在寮）本日ハスキー講習会ノ修了日ニテ午后ハ競技会ヲ举行ス。競技ニハマラスン（三千米）中距離（二千米）近距離（千五百米）毬

拾ヒ競争、連手競争等ナリ。四時半ニテ競技了ヘ修了。証書授与式ヲ行ヒ五時帰寮ス。夜ハ黙読ナシ、九時礼拝就寝シタリ。

二月十二日 土曜日 晴天 遠田

五時起床、武道ナシ。守屋〔森谷〕君モ六時ノ汽車ニテ帰省セラレタ。我ガ三組ハ在寮者三名ニテ午前ハ一室ニ集マツテ雑談シタ。休中炊事ハ一食二人ヅ、ト定メ、成沢君ト僕ト夕食ノ炊事ヲヤツタ。夜黙読無シ。九時礼拝終リ就寝。

二月十三日 晴天 日曜日 菅原

五時起床武道ナシ。礼拝朝食後各自自由ノ行動ヲ取ル。午後帰校スルモノアリタリ（新野君、佐藤君）九時礼拝就床セリ。

二月十四日 曇天 月曜日 成澤

定時起床武道、午前ハ各自室ニ在リテ自習、午後ハ〇時三十分ヨリ大掃除ノ後ハ自由ナリ。八時頃黙読ノ鐘ナ

レリ。九時礼拝就寝一寸前森谷君帰寮セリ。

二月十五日 曇 火曜日 森谷

五時起床、五時半ヨリ武道、礼拝、朝食後十五日ノ事トテ一同神社参拝ヲ致シ、帰寮後十時迄各自室ニ於テ自習十時ヨリ正午迄柔道ヲナシ、中食後〇時半ヨリ三十二聯隊営内観覧見学ニ出掛ケ週番特務曹長殿ノ御先達ニテ兵営組織軍隊生活ノ一般ヲ御説明アリタリ。一通見学ノ上一同将校集会所ヘ導カレ、三浦眞歩兵中佐殿ノ我国西比利亜〔シベリア〕出征時ノ現状又ハ現時ノ思想問題ト我等ノ覚悟等ニ関シテ御講演アリタリ。午后五時帰寮。本日午後二南置賜郡青年諸君カ短期講習トシテ入所セリ。因ニ当日佐藤君ノ紹介〔紹介〕ニテ最上郡ヨリ四名入所セリ。九時礼拝就寝。

二月十六日 晴 水曜日 遠田

定時起床、三組武道、今朝ヨリ置賜短期生参加ニ付、長期生ハ二組ガ武道ニ出ルコトニナル。午前十時ヨリ高野先生ノ北海道不毛地開墾者及丁抹〔デンマーク〕農業ノ

例ヲ引イテ人間ノ努力次第デ如何ナルコトモ成シ得ルト云フ話ヲキイタ。午後二時ヨリハ短期生ト共ニ同ジク高野先生ノ御話シ、三時半迄聞ク。四時ヨリ矢分県視学ノ人生観ノ御話シアリ。七時ヨリ九時迄有吉学務課長ノ講演アリテ直チニ礼拝終リ就寝。

二月十七日 木曜 雪 佐藤

定時起床、我ガ三組掃除当番、礼拝ヲ終リテ朝食ヲ済シ、九時ヨリ講堂ニテ聯隊区司令部ノ川端大尉ノ講演、動員ト題シ述ブル処アリタリ。尚ホ短期生一同ハ卅二聯隊見学、定時中食、北海道ナル高野先生並ニ当所ヲ視察ニ参リシ秋田県警察部長殿ト昼食ヲ共ニス。本日土京中ナル所長先生帰所、道場ニテ東宮殿下御渡欧アラセラル、ニ就、吾等国民ハ精神ヨリ〔約一字分空キ、闕字カ〕殿下玉体ノ安寧ヲ祈ラザルベカラサル旨ヲ教示ヲ蒙ル。終リテ武道ヲ午后四時終リテ、定時夕食後役員会ヲ設ケ、茶話会ヲ催スベキニ就協議ヲコラシ、散会黙読礼拝就眠。

二月十八日 金曜日 雪 新野

定時起床直チニ自習六時四十分迄礼拝、常ノ如シ、定時ニハ加藤先生ノ農村経営久々ニテ講演サル。先生ハ昨日

帰形サレタ計リニテ身体ノ様子モ壮健ナレバ十分ニ御指導ナサレル事ヲ御声咳〔警咳?〕アリタルモ、不幸、先日ノ病氣ノ再発ニテ壇上ノ人トナラル、モ御心配ナルベシ。十時半ヨリ二宮男子師範学校長ノ第一義ノ精神ト題シテ上杉謙信公ノ御遺事ト日本外史ノ著者頼山陽ノ精神カララ力強ク講義サレタ。午后二時頃カラ武道一本二本目ノ打太刀ノ演習ナリキ。夜ハ短期生合同ニテ茶話会ヲ開ク。所長先生ノ御欠席ニヨリ樂シキ会モ得ルトコロ少ナキノ感アリ。各自我レコソハノ音、コ、ニ立チマシタハ——云々終ノ調子ニテ出生地姓名〔姓名〕等ヲ話シテ九時十分会ヲ閉ズ。礼拝常ノ如ク。就眠。

二月十九日 土曜日 晴 菅原

起床ノ鐘ニ蹴床、六時四十分迄黙読礼拝後食事、八時ヨリ短期生ハ煙草専売局及裁判見学、僕等ハ十時頃ヨリ中館理事官ノ平易ナル皇室論ノ講義アリ。午後ハ休ミニテ各自々由行動ヲ取ル。午後第七時ヨリ本県学校医ナル井

出潔氏ノ青年期衛生ニ就テヲ約一時間半ニ涉リテ講演アリ。九時礼拝、直ニ就床セリ。

二月廿日 日曜 曇 成沢

起床ハ定時、各自自習、朝食後ハ短期講習生ト共ニ加藤所長ノ精神問題、經濟問題ノ御話ヲ聞キタリ。南置賜郡ノ中堅青年ノ講習会モ今日デ修了スル事トナリ、昼食ハ長期生ト短期生ト共ニ食ヒ終ルト南置賜郡長ヨリ長期生ニ対シテ感謝ノ詞アリタリ。而シテ昼食後講堂ニテ記念撮影致シ、二時退所シタリ。生徒ハ二時ヨリ武道、五時止ム。我三組デハ佐藤君ト森谷君ノ二名ハ病氣ノ為終日就寝、氣ノ毒千万、夜ハ黙読ナク定時礼拝就寝シタリ。

二月廿一日 月曜 晴 森谷

定時起床、朝武道、食后加藤先生ノ下肥ニ対スル御講話アリ。午前十時半ヨリ中館講師ノ町村自治ノ御講演、終リテ昼食午後一時半ヨリ各組分担ニテ、ズタンボタンノ大掃除ガ始マリ、三時ヨリ武道致シ四時半解散。僕ハ不謹身〔不謹慎〕ヨリ風邪ノ病魔ニ侵サレ、終日自室ニ起

臥シテ此ノ筆ヲ取リタルハ誠ニ申訳ナキ次第ナリ。定時黙読同寢ス。

二月二十二日 火曜 曇 遠田

起床五時、掃除、近頃ナキ寒氣ニテゾーキンノ凍ルノニハ閉口シタリ。七時礼拝朝食ヲナス。午前中ハ加藤先生ノ農村経営ニ付イテ産業組合ノ御話シ並ニ作物栽培、陸稻、麦等ニ付イテ説明アリ。午後武道、三本目打太刀ノ練習、加藤先生ノ説明アリテ五時終リタリ。六時食事、七時ヨリ黙読九時礼拝終リ就寢シタリ。

二月廿三日 水曜 大雪 佐藤

定時起床、武道、僕森谷君トハ数日前ヨリ不快ニテ欠席。礼拝ヲ終リテ朝食済シ、八時ヨリ所長先生ノ農村経営、並ニ正午迄作物栽培等ノ学科、午後ヨリ第二回柔道試合、加藤先生審判ノ下ニ一本切拔ギニ始マリ三本勝負等、各自血湧ギ肉踊ルノ感アリ。午後四時半試合ヲ終ル。夕食後定時ヨリ黙読、定時三拾分前礼拝ヲ終ヘ風呂ニテ柔道試合ノ汗ヲ洗ヒ、安ス安スト眠ル。

二月廿四日 木曜日 晴 新野

定時起床、武道、何タル事ヤ、欠席者甚ダ多シ。六時五十分礼拝、君カ代再唱、勅語奉読ハ例ノ如シ。八時半ヨリ所長先生ノ農村経営ニテ産業組合ノ沿革ニテ英国ノロバートオーウェンノ話カラホワース氏ノ言葉ノ力、否赤誠ノ力ニテ労働組合組織ノ話アリタリ。後殖民問題ニ移ラントス。十時半ヨリ作物栽培ノ講演、正午ヨリ後武道ヲナシ三時半迄。其レカラ自由ニ自習スルモノモアレバ外出スルモノモアル。七時ヨリ黙読、九時例ノ如ク礼拝、佐藤君ヨリ講習生全部ニ安良城村ヨリ來ル青年ノ礼言ヲ伝ヘラル。

二月二十五日 金曜 晴 菅原

五時にて起床武道礼拝、朝食は毎日の如し、八時過ぎヨリ加藤先生の殖民に対する有益なる御話、午前十時過ぎヨリ瓜類の栽培に関する実地経儉〔経験〕上の御話正午まであり。午後は剣道の試合に火花を散せり。新野、成沢、農場行。五時頃に修了す。入浴黙〔黙読、〕九時礼拝就床す。

二月二十六日 土曜 晴 成澤

五時起床武道、朝食後ハ加藤所長ノ殖民ニ関スル御話（八時スギヨリ十時頃マデ）拾時過ギヨリ作物栽培ノ内ノ胡瓜、茄子ノ御話アリ。而シテ十二時頃我ガ組ノ新野氏農場ノ大根貯藏法ヲ質問ス。先生ハ貯藏法傍々〔旁々〕生徒一同ニ向ヒ時ノ移ルヲモ忘レテ教訓アリ。新野君ノ為ニ御教訓ヲ受ケシヲ思エバ新野君ニ対シテ衷心大イニ感謝セザルヲ得ザリキ。午後ハ休ニテ自由様々ナリ。明日ノ村山会ニ出席スベク当所ノ卒業生ボツボツ参ラレタリ。夜ハ黙読ナク九時礼拝就寝ス。

二月廿七日 日曜日 雨 森谷

定時起床、朝成澤君ト僕ト炊事ニテ其任ニ取掛ル。礼拝朝食后吾等ハ休ミニテ外出スルモノ自室ヲ居リテ談話スルモノ音楽ニ氣ヲ安シンゼルモノ等、様々思ヒノ俣ナリキ。村山卒業生総会ハ午前九時過ギヨリ開会セラレタ。昼食ハ卒業生ト同時ニ食シ、吾等先輩ノ人々ヲ知ルコトガ出来タノハ誠ニ喜シイ次第ナリ。午後六時一同夕食、村山卒業生ハ今晚ハ大抵御泊リノ様ナリ。黙読無ク定時

礼拝就寝。

二月二十八日 月曜日 晴 遠田

五時起床、直チニ掃除ヲシタ。七時礼拝終リ食事、九時ヨリ先生ノ農村経営、岐阜県問題ノ例ヲ引イテ地主対小作問題解決ニ付イテ我々ニ注意ヲ与ヘラレタ。十一時ヨリハ堆肥製造使用ニ付イテノ御話シ。午後ハ大掃除、二組三組炊事場及附属、六時食事、七時ヨリ黙読、九時礼拝就寝。先生ハ午後四時ノ汽車ニテ上京サレタ。三日ニ御立チニナル皇太子殿下ヲ御見送り申シ寛先生ノ御病氣見舞等ヲシテ四日ニ御帰リニナルト云フ。我々モ陰乍当所ニ於テ無事ナル。

三月一日 火 曇 新野

定時ニ起キテ武道ヲナス。今日ハ金井村視察ニテ武道終ルト直チニ礼拝、食事ヲナシ、中食ノ弁当ノ着スルヲ待ツ、七時五十分出發シ、途中熊野神社ニ参拝シテ金井村ニ流レ込ム。役場ニハ五十嵐助役、色々と御親切ニ優待シテ下サル。十一時近ニハ村ノ様子ヲ問〔聞〕ケテ、十

一時ヨリ日下部村長ノ一般的御話ナリ。中食ニハ豆腐汁ヲ地走〔馳走〕ニナル。ソレカラ農事上ノ色々ト御聞キシテ、三時役場出發、途中田中正吉氏ノ堆肥ヨリ畜ノ利用ノ方法ヲ聞ヒテ来タリ。自由解散ノ為メ四時頃ヨリ六時頃迄帰所ス。夜ハ食費徴収ヲス。

三月二日 水 曇 菅原

五時ニ起床、十一時頃マデ生産費（米）及ビ労力分配表ノ出来ザルモノハ此ノ方ノ調査ニ、其他ノモノハ実習。午後ハ擊劍及ビ柔道ノ練習、夕食後入浴、本日ハ午前十一時ヨリ長曾我部氏ノ産業組合約一時間半アリ。七時ヨリ黙読礼拝九時ニテ就床。

三月三日 木 曇 成澤

五時起床森谷君と僕とは炊事にて余は武道、朝食後八時より「地主の小作人保護奨励事業」の筆記、九時より荒木技師の桑樹栽培の内の「栽植」に就いての講話、十二時迄ありたり。午後は午前の筆記の続を筆記し、三時より武道、新野、菅原の二君は農場に野菜取り、夜は例の

通七時で黙読、九時礼拝就寝。

三月四日 金曜日 雪 森谷

定時起床、二人炊事、余ハ武道、七時礼拝朝食、午前八時ヨリ黙読ノ鐘鳴リ、十時ヨリ横田講師ノ林業ニ就テ、木材ノ需用等ノ話。午後一時ヨリ加藤先生東京ヨリ帰所致シテ、出張中ノ御話並ニ我等ノ覚悟等御話下被タリ。終リテ我等ハ炊事ニ取掛リ、其他ハ先生指導ノ下ニ武道ヲ致シタリ。本日午後三時頃東村山郡豊田村青年ガ短期講習トシテ三十五名入所セラレタリ。

三月五日 土曜日 晴 遠田

起床五時、一三組武道、短期生ノ相手ニナツテヤツタ。七時礼拝終リ、我々長期生ヨリ朝食ヲ戴イタ。八時ヨリ加藤先生ノ御訓話、理想信念ヲ御互日一日スルト云フ事ハ万事ヲ解決スル根本デアルト云フ事ヲ深く御話シサレタ。十二時一同昼飯、午後一時ヨリ我が三組及ビ一二組ハ実習、他ハ武道、短期生ハ県庁視察。四時ヨリハ聯隊ノ三浦中佐ガ御出被ナサレテ、今日ノ思想戦ノ武器戦ヨ

リモ恐ロシイ事ヲ御話シサレタ。六時食事。七時ヨリ茶話会ヲ短期生ト共ニ催ス。三浦中佐殿ノ日露戦役ニ於ル大夜襲ノ奮闘談及ビ現在スベリヤ〔シベリヤ〕出征軍ノスベリヤニ於テ大和民族ノ理想信念ヲ發揚シ大イニ大イニ露国人ノ觀迎〔歡迎〕ヲ受ケツ、アルコトヲ聞イテ、我々ハ血湧キ肉踊リ実ニ痛快ナル感じニ打タレタ。九時愉快ニ閉会シ直チニ礼拝終ツテ就寢。

三月六日 日曜 曇 佐藤

定時起床武道、自分一人ハ炊事当番、短期生ノ当番ト共ニ執行ス。礼拝後朝食ヲ終ヘ八時半ヨリ佐藤先生ノ農村経営、精神問題ニ就キテ講演、十二時迄、午後ヨリ我三組武道、本日秋田県内務部長当所視察旁來所アリキ。夕食後黙読礼拝ノチ就眠。

三月七日 月曜日 曇 新野

起床せんとすると明美なる電灯よ、如何なる故障にてか消え失せて、暗黒世界とはなりたり。丁度天照大御神の天の岩戸に隠れ給ひたる時は斯くの如くかと察せらる。

五時半起床にて六時に武道をなす。稍明かるい世界に向つて来た。入所當時には六時には物の綾目も知れざる時が、三月の七日明光なる太陽の東の空に出でんとするなり。六時四拾分、武道終る。当朝遠田君は炊事軍曹をなす。午前中自習をなし午后からは武道をなす、短期生の明日の出発との事。夜は色々と四方山話にて九時礼拝、今日も終了す。

三月八日 火曜日 晴 新野

定時起床、森谷、成沢両君は武道、他は炊事を短期生と同時になす。今日は休みにて各自其の目的に進み努力しつつ、あり。加藤先生は柏倉門伝村に御出張なさる。今は安息デーなり。多数の人は書籍屋に行ぐらしい。午前九時頃東村山豊田青年は全部帰る。午后九時礼拝。

三月九日 水曜日 曇 菅原

佐藤、新野、遠田及ビ僕ハ炊事ノタメ武道ニ出デズ炊事に取リか、ツタ。十時過ギカラ農事試験場長ノ農事試験場ハ如何ナル仕事ヲナスヤニ付キ約一時間分の御話アリ。

午後ハ一二三組ハ金井村ノ短期講習会（武道）指導として出張、四五六ハ実習、新野君ト僕ハ居残りニ炊事ニ従フ、加藤先生モ金井村ニ御出張にナラレタリ。六時頃一同帰寮セリ。本日ハ官舎土固メノタメニ人夫多数唄ヒ乍ラ縄ヲ引ク。イト賑カナリキ。本日ノ午前九時ヨリ所長ノ皇国運動御説明アリ。一同実習セシトコロ心身立所ニ清□□ナリ。

三月十日 木曜 晴 成澤

定時起床、森谷君ト僕ハ武道、余ハ炊事ナリ。朝食後八時半頃ヨリ一時間位、当所第二期ノ卒業生タル菊池氏「養鶏ニ就イテ」ノ御話アリ。後二長曾我部講師ノ産業組合、而シテ昼食。午後ハ四五六組金井村ニ形ノ指導、我ガ組ヨリハ新野、菅原ノ二君行カレ、余ハ実習縄ナインタリ。加藤所長ハ正午迄金井村デ講演サレ直チニ秋田県ニ向ツテ出発サレタリ。夜ハ七時黙読、九時礼拝就床。

三月十一日 金曜日 晴 森谷

定時起床、朝之任務前日ニ同シ。七時ヨリ九迄自習、九

時ヨリ長沼、江坂両氏ノ軍隊生活ノ一般ノ御話アリタリ。十一時半中食、直チニ地方裁判所見学致シ、三時半帰所、五時半夕食、日当ニ没シレドモ電灯ノ光ナク、電話ニテ会社ニ問ケレバ今漸クト云ヘトモツイニ一晚暗黒ノ中ニ過ギ、講堂集会モ出来兼ね、各自室ニ於テ九時礼拝就寝。

三月十二日 土曜日 晴 遠田

五時起床、四人ハ炊事、成澤君ト森谷君ハ武道、七時礼拝、勅語奉読、天皇陛下弥栄三唱、皇太子殿下ノ御安行ヲ祈リテ朝食ヲナス。午前ハ有吉学務課長ノ憲法大意ノ御講義アリ。十一時終リ。我々ハ炊事、午後休ミトナル。新野君、工藤君ハ薬液培養ヲ始メル。我々ハ此ヲ見テ大イニ得ル所ガ有ルト思フ。三時ヨリ風呂炊付、炊事ニカ、ル、五時半食事黙読ナシ。九時礼拝終リ就寝。

三月十三日 日曜 晴 佐藤

定時起床我三組ハ昨日迄一週間炊事当番ヲ終ヘ、今朝ハ掃除当番ニ該当スルヲ以各室掃除終リテ定時礼拝朝食後、日曜ナレバ各自外出、兵営ヤ知己其他訪問各自夕刻帰所、

五十嵐君ハ去ル二月十一日帰郷後何等ノ通知モ無ク、未ダ帰所セズ、欠席殆下三十歳月ナラン。早ク来リテ精神的大和魂ノ磨合ニ努力シタナラヨサソーナモノゾカシ。夕食後黙読、定時礼拝就眠。

三月十四日 月曜日 雪 新野

定時起床武道ヲナス。昨日迄ハ長閑ナル春ノ気分ヲナシタル天然ヨ、今日ナリテ又冬ノ世界ト化シ寒氣甚ダシ。唯一人コノ現象ヲ驚カザラン人アランヤ。然レドモ未ダ白毛ノ飛ビ来ル時節トハ知ルナリ。朝食後直チニ大掃除五組ト共ニ自治寮外ノ本所ノ方全部ヲナス。九時ヨリ県会議事堂ニテ農具講習会方一日目ニ出席ス。講師農商務省技師廣辺氏、学理上ヨリ力学ヲ教ハル。中食ハ弁当、四時半迄ニテ終リ帰所シテ風呂ニ水クミヲナシタ食、後第一着ニ入浴シテ黙読礼拝、今日ヲ終ル。紀元二五八一年ノ三月十四日ノ活動モコレニテ終リテ後何億年ノ後ニテモ再ビ為ラザルナリ。

三月十五日 火曜日 雪 菅原

朝武道、朝食後ニ神社参拝、十時ヨリ県会議事堂に於て農商務省技師廣辺廣三氏の耕墾器ニ対スル又蒸氣機関ニ付キ講話アリ。五時過ニ帰寮ス、七時黙読、九時礼拝就床。

三月十六日 水曜日 曇 成沢

朝武道、朝食後ハ県会議事堂ニ（農具講習会ニ）行ク。本日ハ第三日目ニシテ修得証書授与式アリ。五時帰寮ナス。夜ハ茶話会加藤所長先生ノ御話（道場ニテ）、十時閉会、礼拝就床。

三月十七日 木曜日 曇 森谷

朝武道、定時礼拝、朝食八時ヨリ一時間習字、九時ヨリ加藤先生ノ農村経営、村民全体カ神社ヲ中心トシテ理想信仰ヲ研磨スルコトノ御話アリタリ。十一時ヨリ堆肥ニ関スル御講話アリ。○時半中食。午後武道実習ノ二ツニ別レ、我等ハ武道ニテ加藤先生ヨリ一本目ノ打太刀、仕太刀ヲ丁寧ニ教ハラレタ。定時夕食黙読礼拝寝ス。

三月十八日 金曜日 晴 遠田

定時起床、掃除、十時礼拝、勅語奉読、天皇陛下ノ弥栄、皇太子殿下ノ弥栄ヲ三唱シテ食事ヲナスコト三日ヨリ同ジ。午前中ハ九時迄習字、九時ヨリ長曾我部先生ノ産業組合ノ講話アリ。午後ヨリ第二回弁論会ヲ開ク。我ガ三組ヨリハ佐藤君、新野君、成澤君ノ三氏、代表シテ出演致サレタリ。第一回ニ比シテ弁者ノ熱誠ナル、聴者ノ真面目ニナリタル事ハ、何人モ深ク感ジタル所ナリ。四時閉会シ室ニ帰りテ批評談等ヲ致シ大イニ得ル所アリタリ。夜黙読、九時礼拝就寝。

三月十九日 土曜日 晴 佐藤

定時起床武道礼拝、朝食後各講師ニ対シ電話ニテ頼合セタルモ、皆都合悪シク出張ナキ故ニ黙読、午后ヨリ休ミナレバ大部帰省スルモノ多、又外出モ随テ多シ、夕食後定時礼拝、寝ニ就ク。

三月二十日 日曜 雨 菅原

朝大掃除ヲヤル。帰宅セルモノ大多数ヲ占ム。在寮セル

モノ僅カニ二十名ニ過ギズ各自室内ニテ勉強ス。新野君モ帰宅ス。雨ハ午后ニ至ルモ益々繁ニナルバカリ。九時就床。

三月廿一日 月曜 曇 成沢

朝ハ大掃除、朝食後ハ春季皇霊祭ニ付休、生徒ハ自習外出様々ナリ。夜ハ九時礼拝就床。

三月廿二日 火曜日 曇 森谷

定時起床武道礼拝、例ノ通り、八時ヨリ加藤先生ノ肥料ニ到〔関〕スル御講話、特ニ堆肥過燐酸石灰ニ就テ、午後ハ大掃除ヲ致シ、終リテ一同武道ヲ修練五時退場、定時黙読礼拝就寝。

三月廿三日 水曜日 遠田

定時起床武道、七時礼拝、食事。午前ハ五十嵐先生ノ金井村ニ於ル金融機関ニ就イテ。午後ハ農事試験場ニ行キ農産製造ノ話ヲ聞キタリ。夜黙読九時礼拝終ツテ就寝シタリ。

三月二十四日 木曜日 曇 新野

朝は例により武道、食前は例の如し。学科は加藤先生の農学大意、肥料学にて過燐酸石灰、硫酸、草木灰等を拝聴す。然して午前中を終了す。午后よりは武道をなす。農事試験場見習生及講習生来りて、所長先生より理想信念の確立につき、彼等の頭には如何に入りたる事や、六時夕食をし、七時より例の如く九時礼拝、午後から佐藤君帰省す。

三月廿五日 雪 金 菅原

本日ハ九時ヨリ農事試験場生徒二十幾名ト共ニ本校講堂ニ於テ加藤先生ノ農村経営ノ御話、十時迄ナリ。後午後ハ県立工業試験場見学後自由ニシテ撃剣柔道ヲヤツタ。加藤先〔先生〕十時過ギヨリ御出張トナツタ。九時礼拝就床。

三月廿六日 土曜日 曇 成沢

朝武道、食後ハ「誓之御柱」ヲ生徒カハルカハル壇上ニ立ツテ読ミ、先生ニハ所々講義サレタリ。午后ハ休ミ夜

ハ黙読ナシ。九時礼拝就床ス。

三月廿七日 日曜日 晴 森谷

定時起床武道礼拝例の如し。日曜の事とて休みなれば外出する者、図書室にて読書するもの、室内にて勉強するもの、談笑する者、様々思ひ思ひの行動なりき。午後七時黙読、九時礼拝就寝。

三月廿八日 月曜日 大雪 遠田

定時起床、朝武道、礼拝、食事。午前中加藤先生ノ軍人団ト青年団及ビ地方自治ノ関係ニ付イ〔付イテ〕ノ御話。中館地方課長ノ自治行政ノ御話シアリ。午後ハ大掃除、一二三組寮内全部ヲ掃除スル四時終リ。六時夕食、七時ヨリ黙読、九時礼拝就寝。

三月廿九日 火曜日 晴 佐藤

定時起床武道礼拝朝食済シ、午前八時ヨリ午前中加藤先生経済学講座承ル。昼食後全員武道、加藤先生直接師範ヲ受ク。三時半終リ其後一同道場ニ集リ所長ヨリ注意ヲ

受ク。曰ク松田喜一郎君病氣ノ為メ済生館へ入院セルニ就テ講習生ニ対シ注意アリキ。夕食後道場ニ於テ助手佐藤孫左衛門君近々郷里ニ立帰ル由ニ付、送別会トシテ茶話会ヲ催ス。君ハ去年四月秋田県由利郡ヨリ当所ニ入所、其後吾等六期生入所ニ当リ先輩者トシ、且ツ当所助手トシテ指導セラレタルヲ感謝ス。送別ニ際シ君ノ前途ヲ祝シ益々自治ニ努力シ君ノ弥栄ヲ祈ル。余興トシテ加藤先生ノサツマビワ始メテ承リタリ。午后十時過ギ閉会ト同時ニ佐藤君ノ弥栄三唱礼拝。本晩ヨリ加藤先生モ宿直室エ御泊リ、未ダ完全ナル御身体トモ相見エズ、無理ヲ犯シテ教訓下サルヲ案ズ。ヒソビソヒソビソナガラ寝ニ就ク。

三月三十日 水曜日 晴天 新野

定時起床直チニ掃除ヲナス。其ノ総ハ例ノ如シ。朝食終ルト五十嵐氏ノ金井村研究、後習字。午后ヨリハ武道、成澤君、菅原君病氣ニテ出席セズ。其ノ後ハ例ノ如シ。

三月三十一日 木曜日 晴天 菅原

午前中ハ加藤先生ノ在郷軍人青年団及ビ地方自治ニ関スル講演ヤ有吉学務課長殿憲法。午后ハ実習及ビ武道、成澤君も加減悪く、僕も床の中で天丈〔天井〕の節穴のみ数へる。夜長澤地方指導師の道場に於て戸主会の御話ありたり。因に同氏は此度東京府に御転任の由にて簡短〔簡單〕なる送別会の印として茶話会を催し、十一時礼拝就寢。

四月一日 金曜日 晴 森谷

定時起床武道礼拝例の如し。午前八時半招魂社参拝、九時佐藤孫左衛門君帰国の事とて一同門前迄て見送たり。九時半より加藤先生の御話十時より横田指師〔技師〕の林学大意、午後農場実習を致し、午后五時帰所、七時黙読、九時礼拝就寢。

四月二日 土曜日 晴 成沢

五時起床朝ハ武道、食後ハ加藤先生ノ農村経営「農業ノ意義ト日本農業ノ特性ト欠陥」ノ御話アリ。午后ハ休ニテ外出セリ。夜ハ黙読ナシ、九時礼拝就床ス。

四月三日 日曜 曇 遠田

定時起床、朝武道、七時礼拝、皇室ノ弥栄三唱、食事。
今日ハ神武天皇祭ニ日曜ニ付キ外出多シ。県会議事堂ニ
テハ各都市ノ最優等者ノ雄弁大会アリ。多ク之ガ聴講ニ
行ツタ。森谷君、新野君ハ風邪ニテ外出不能、空シク日
ヲ暮サレタ。七時ヨリ黙読、九時礼拝就寝シタリ。

四月四日 月曜 晴 佐藤

定時起床武道礼拝、弥栄。午前八時ヨリ所長先生農村経
営、十時ヨリ中館理事官自治制、午后ヨリ大掃除、午後
三時ヨリ柔道練習、夕食後黙読礼拝、同時ニ所長先生ヨ
リ流感流行ノ兆アリ、注意スベキ旨御注意ヲ賜フ。終リ
テ各自就眠。

四月五日 火曜日 快晴 新野

定時起床スルト太陽ガハヤ東ノ空ニ立チ昇ラントスルト
キデアツタ。雪ガトコロトコロニ残ツテ居ル計リニテ庭
ノクローバーハ春ノ暖カサニテ青葉ヲ出シタ。洗面後直チ
ニ掃除、七時ニハ例ノ如ク君ガ代二晶〔二唱〕ヲナシ、

天皇皇太子ノ弥栄ヲナシ朝食。学科ハ加藤先生ノ農村経
営、農村問題、午后ヨリ実習農場ニ行キ、麦蒔ノ方法ヨ
リ農場ヲ一周ニテ色々ノ実地教授ヲ受ケ、帰路色々ノ農
具肥料ヲ運ビ来タリテ、ソレヲ整理シ又葱ヲ移植シ、温
床トナサントスルトコロヲ二尺程掘リ、六時半夕食。ソ
ノ美味ナル事甚大ナリ。勞シテ食フハ勞セズシテ食フヨ
リソノ味百倍スト云ハザルヲ得ナカッタ。七時ヨリ黙読、
九時礼拝、愛知県ヨリ一補習生来リ、直チニ熟眠。

四月六日 水曜 快晴 菅原

午前中ハ加藤先生食糧問題、五十嵐先生ノ金井村研究。
午後ハ市役所ニ於テ桑樹栽培講話アリ。後原蚕種製造所
ニ於テ立木材採法ノ実地指導ヲ受ク。帰校ハ五時頃ナリ
キ。

四月七日 木曜 微雨 内藤

定時起床スレバ四囲一面ニ狭霧コメテ龍山のかタ未ダ朝
の夢ヨリ覚メヤラズ。武道君ケ代弥栄例ノ如シ。ソノ中、
空模様急ニ怪シクナリシ。肅々タル冷雨サヘモヨオシ来

タレリ。午前中ハ加藤先生ノ食料問題及ビ農村経栄〔経営〕ニシテ、午後ヨリハ武道ニテ四時マデナリ。力入りテ快キコト甚シ。夜ハ黙読礼拝例ノ如ク、肅々ト屋根打ツ雨声ヲキ、ツツ就寝。

四月八日 金曜日 晴 森谷

定時起床、昨日ノ雨ハ何時シカ晴レテ今日ハ流石ニ麗カナ心地ヨキ日和デアツタ。武道礼拝例ノ如シ。食后加藤先生ノ農村経営、農村教育問題ニ就テ御話アリタリ。十時ヨリ有吉学務課長ノ憲法大意ノ講話一時間アリ。十一時ヨリ横田林業課長ノ林学ノ講話アリタリ。

午後二時武道、四時半ヤメ、夜ハ七時ヨリ茶話会開催シタリ、本日高野先生御赴任サレタリ。

四月九日 土曜 晴 成沢

五時起床武道例ノ如シ。朝食後農村経営、農村教育、肥料大豆粕ニツイテ、加藤先生ノ御講話。午后休。佐藤君ハ帰省、柔道外出自習様々ナリ。黙読ナシ。九時礼拝就寝ス。

四月十日 日曜 晴 遠田

五時起床、直チニ掃除ニ取カ、リタリ。朝ノ礼拝弥栄例ノ如シ。今日ハ日曜ニ付キ各自自由外出多シ。菅原君ト成澤、森谷君ト僕トハ朝食後直チニ東北ノ名山タル山寺山参詣ニ行キタリ。佐藤君ハ所用アリテ帰宅シ、内藤君、新野君ハ勉強セリ。夜黙読、九時礼拝就寝。

四月十一日 月曜日 晴 新野

定時起床して見ると春のうら、かなる日光は東の空に立ち昇らんとするのであった。例の如く武道をなす。朝食八時になりても学科の振鈴なし。不思議と思ふと九時に高野先生より加藤先生の軽い感冒の由承はる。高野先生よりは北海道と米国の比較を承はる。十時より加藤先生の農村経営、地方農村の村長としての役場内の事務を御聞きする。午後より大掃除、寮外全部を一二三組にてなす。その後三時より武道、新野外出、佐藤君帰所す。夕食六時入浴して黙読して九時礼拝就眠。

四月十二日 火曜日 曇 佐藤

定時起床武道礼拝。新野君法用ニテ帰省ス。朝食後高野先生ノ肥料学、所長先生農村経営、午后ヨリ一二三組武道。夕食後各組委員召集、秋田旅行其他協議シ即刻組員一同ヲ集リテ伝達ス。定時礼拝就眠。

四月十三日 水曜 曇り 菅原

朝ハ例ノ如シ、午前農村経営、高野先生ノ肥料ノ御話。午後ハ一二三組実習。藁仕事、三四五武道。遠田君ト成澤君、風邪ニテ就床ス。昨日ハ寮内ニ風神ノ彷徨セル模様ニテチヨイチヨイト患者見エタリ。

四月十四日 木曜日 曇 内藤

朝は例の如く午前中に五十嵐先生の金井村研究、中館先生の自治法制あり。午後は全部武道ナリ。夜となりて加藤先生の武道に関する有益なる講話ありたり。九時半頃就寝。

四月十五日 金曜 曇り 成沢

朝ハ定時起床掃除、食後ハ神社参拝ノ日ニ付キ招魂社前

ノ掃除、而シテ参拝ス。八時ヨリ中館講師ノ法制、十時ヨリ横田講師ノ林学大意。午後ハ一二三組武道ナルモ道場ニ出タ者ハ森谷君ト内藤君ノ二人ニテ、佐藤君ハ実習組ノ「モツコ」製造ノ師範タリ。余ハ風邪ノ為床中ニアリタリ。夜ハ例ノ如ク七時黙読、九時礼拝就寝ス。

四月十六日 土曜日 晴 森谷

定時起床、武道礼拝例ノ通り。午前八時ヨリ加藤先生ノ農村経営、特ニ青年団ニ関シテノ御講話アリ。十時ヨリ船越先生ノ習字ノ教ヲ受ケ西郷南洲遺訓ヲ書ス。午後休ミニテ自分自分思ヒ思ヒノ用便ヲ達ス。午後七時ヨリ長澤地方指導ノ講話ヲ県会議事堂ニ一同聴講ニ行ク。氏ハ本県ヲ去ル最後ノ声トシテ、時代ノ趨勢ニ鑑ミ、特ニ県人ノ猛省ヲ望ムト題シテ長時間ニ亘ル御講演アリタリ。十時半帰所直チニ礼拝就寝。

四月十七日 日曜日 晴 遠田

六時起床武道休ミ、七時半礼拝弥栄例ノ如シ。今日ハ東京ヨリ農商務省事務官小平先生御来所ニ付キ、其ノ御講

話ヲ聴講スルコトニナル。九時ヨリ小平先生ノ御話シ、西洋ノ地主小作問題ヨリ現在在我国ニ起リツ、アル問題マデ詳シク且ツ熱心ニ御講話アリ。其ノ中ニハ手段ノ巧妙ナル其ノ悪性ナル驚クベキモノアリテ少ナカラズ村々ノ自覺セシメタリ。四時ニ終ル。五時半食事、其レヨリ三組一同ニテカロリー計算ヲヤツタガ、意見区々ダノデ各自各室ニテ二日分ツ、作ルコトニシテ別レタ。九時終リ。

四月十八日 月曜 曇 佐藤

朝定時起床、武道礼拝。食後昨日以来小平先生ノ講演、各地ニ於ケル地主对小作問題ノ紛争ニ就而御説明。午后モ引續キ講演。午后三時半全ク終リ、小平先生ハ午后七時発列車ニテ帰省セラル。夕食前各自散歩等外出スル者多シ。夕食後黙読礼拝終リテ就眠。

四月十九日 火曜日 晴 新野

午前五時起床、武道礼拝、食後加藤先生之農村経営。後有吉課長の憲法大意。午后藁仕事。内藤君武道をなす。五時半夕食黙読、九時礼拝。

四月廿日 水曜日 晴 新野

朝ハ例の如し。八時ヨリ加藤先生の農村経営にて結論をなされたり。後植物学にて午前中終了し午后より藁仕事。内藤君は武道、僕に秋田旅行□□を書く。其の後は例の如く記入するに足らず。

四月廿一日 木曜日 晴 菅原

本日午前中は中館先生の自治行政、加藤所長の植物生理、午後実習及び武道、九時礼拝就床。実習の際に工業試験場の地内の耕鋤をやる。

四月二十二日 金曜 雨 内藤

朝定時起床、小生ハスイ事ノ当番ナレバ武道礼拝ニハ参加セザリキ。午前ハ加藤先生ノ植物生理根毛同化作用ノ講義及横田先生ノ林学ニ関スル講義ヲ承リタリ。午后ヨリハ大掃除備品調べアリタリ。秋田旅行ノ前ナレバ帰家スル人モ多シ。夜ニ至ツテ入浴シ黙読礼拝、例ノ如ク定時就寝。

四月二十三日 土曜日 曇 森谷

朝起武道礼拝食事例ニ依ツテ例ノ如シ。本日ハ土曜ナレドモ秋田旅行準備ノ為婦省スル者多イ為休学。在所シルモノ半数位ナリ。午後三時頃奥羽各県ノ県会議員ノ連中当所視察御出デナラレタリ。夜ハ黙読ナク定時礼拝就寢。

四月二十四日 日曜 晴 成沢

朝ハ掃除、食後ハ休ニテ明日ノ旅行ノ準備ノ為ニ外出多シ。午後ハ風呂水扱〔汲〕ミ旅行準備悉皆出カシ、八時半礼拝就寢ス。

四月二十五より二十六、七、八の四日間秋田旅行

四月二十九日 金曜日 晴 遠田

朝五時半ノ起床、武道ナシ。午前中ハ十時迄加藤先生ノ植物生理、蛋白質同化作用及ビ植物ノ呼吸作用ニ就イテ御講話並ニ炭酸同化作用ト呼吸作用ニ就イテ試験アリ。十時ヨリハ高野先生ノ肥料硫酸智〔智利〕硝石灰窒素ノ性質使用上ノ注意ニ就イテノ御話シアリ。午後ハ先生ノ

土壤学三時迄、夜ハ最後ノ茶話会ヲ開キ色々先生ノ有益ナル御話シヲ聞キ、十時半閉会シタリ。直チニ礼拝就寢。

四月卅日 土曜日 晴天 佐藤

定時起床大掃除礼拝。食後十時迄黙読、十時ヨリ中館理事官自治行政結論。午后ヨリ高野先生肥料学。午後四時迄先以テ予定ノ四月モ本日迄ニテ、五月ヨリハ大高根ナル開墾場ヘ行キ労働的修養スベク、且自□〔炊?〕不止得モノハ）先帰郷スベク四時頃ヨリポツ帰ルモノモアリキ。夕食ニハ高野先生北海道土産キビ餅ノ振舞ニテ、各自舌ツゞミヲ打チテ馳走ニナル。会計万端帰郷ノ上開墾場行キ、仕度ヤラニテ忙殺セラレツゞアリキ。思ヒ返セバ吾等昨年十二月十四日併モ大雪、当時入所シ四ヶ月半モ□ノ間、自分新野君ハ一先ツ帰郷ノ上自宅ニテ修養スル集リリ〔積り〕ナレバ、四ヶ月半ノ共同生活ノ上大和魂ノ磨キ合ヒ、漸ク別ル、ニ当リ、先生各位ノ御厚思〔厚意〕ヲ謝スルト共ニ、先生各位始メ諸君ノ御健康ヲ祈ルノテアル。定時礼拝眠リニツク。

五月一日 日曜日 晴天 内藤

定時起床、礼拝。朝ヨリ昼ニカケテ続々帰省サル、人多シ。舍内急ニガラントナリテ何トナク寂シキ心地ス。午后ハ休ニテ黙読、夜トナリテ加藤先生ヨリ開墾地ニツイテノ注意及オ話しアリテ其場ニテ礼拝後直ニ就寝。新入生多ク来タル。

五月二日 月曜日 曇後雨 内藤

定時起床、小生ハスイ事当番ナリ。加藤先生今晩二時ノ列車ニテ秋田青森方面ニ出發サル。朝ヨリ空怪シク曇リ居タリシガ、午后トナリテ遂ニ雨トナリヌ。諸君多ク帰省サレテ僅カ十名バカリナリキ。午后ヨリ船越先生ノ武道アリ。終リシ後ハ開墾地準備ニ忙殺サレ、夜ニ入りテ黙読後礼拝、直ニ就寝。

五月三日 火曜日 晴 森谷

定時起床、朝炊事ノ外全部掃除、七時礼拝例ノ如シ。食后暫ク休憩ノ後農場ヘ佐藤正君ト僕ト□〔書?〕類諸道具ヲ取りニ行ク。午後ヨリ再ビ行キテ農場ノ道具ヲ全部

持運ブ。午後四時ヨリ休ミ、夜ハ開墾地ニ持行ク種物入レル袋縫ヒ、九時礼拝就寝。

③

〔表紙〕

大正九年十二月二十七日 日誌 第六期第六組 山形県
立自治講習所

〔本文〕

大正九年十二月廿七日 月曜日 松田時郎

去る十五日の入所式当時には五組に編成せられし講習生も其の後入数〔人数〕増加し所内室換の結果、六組に編成せられた。斯くして午后一時、第六組の日誌は生れ出で、たくさんの屋移りの活劇の後、午后六時頃より忘年会を道場に開いた。お寿しの御馳走に腹つゝみを打つて元氣づいた各人は、独唱や余興に時の移るのを忘れた。但加藤先生が病魔の為に御臨席せられぬ様になるとの事で、得意の城山や琵琶を御聞きする事を得なかったのは

皆共有の遺憾であつた。但舟越先生の有益なる□〔最?〕感を聞いて大変に感服した。茶菓の御馳走後楽しく散会。時正に拾時。礼拝を行ひて就褥、その楽しみは夢の中にまで思ひ込んだ。

十二月廿八日 火曜日 松田時郎

起床五時例の如し。舟越先生の習字があつて忠孝の二字を稽古した。来年□一日には書き初めとして忠孝の二字を書し持参すべき事との話があつた。加藤先生之農村経営があつた。病を推して講話下さつた。御心のほど恐察するも感激に堪えない。その話の中には吾等をして腸より響鳴さす或物があつた。誠□〔即?〕是? 一同は只謝するの□をならない。

午后帰宅を許可せられし□、温かき親の膝上に帰る寮生の顔にはさすがに楚々たる喜びの色が上つて居るのであつた。帰宅。

大正拾年一月三日 晴 高嶋

今日迄の新年休みも半日過ぎた。午後に至り近野、菅

野、太田の三君が僕の家を訪問してくれて、面白かつた。三時頃、講習所へ帰所した。又、昨年と同じ友と共に共同生活が続けた。帰所しないものは未だ半数位あた。今日は別に何も変りなく過し、九時に至り礼拝して寮生活の一日を過し楽しき夢路を辿つた。

一月四日 朝雪 午後晴

朝例の通り五時起床、僕等同志は馬見ガ崎河迄冷水浴に行つた。今日は中々寒氣強し。所長殿は上ノ山の講習会へ御出張なされて未だ帰所なされず、午前中は習字と武道。午后は実習、藁仕事をやつた。僕は瀧山村迄藁運搬に行つた。夜は新年会行ふ筈なりしも加藤所長さんが帰所なされざるを以て中止。九時礼拝し寝につく。一部の入帰所。

一月五日 曇り

朝五時起床、武道をやつた。午前中の学科、金井村研究に付て五十嵐さんの講話ありました。午後からは加藤所長の農村経営があつた。又其後は有志の武道ありて終り、

夜入湯し礼拝して消灯寝につく。

一月六日 木 晴 工藤貞藏

午前五時少し前起床、朝左程寒からず。馬川の流れにて冷水浴をやる。此の頃は水量余程減じて多い時に比してどーも感心されない。我第六組は掃除を為す。終了後図書室にて書籍を見る。中館地方課長の自治制度有り。午后より一部は実習として縄綱ひ。僕等武道をやる。笹原、永沼両君帰校。七時より黙読、九時礼拝就寝。

一月七日 金 晴

午前五時起床、朝食前武道は第五組なり。習字の時間「忠孝」と画箋に書いて出す。中館地方課長の権に対する学科有り。所長上ノ山より帰校迄自習、その間西郷南洲の肖像画を書く。中々思ふ様に行かん。（慨嘆）式時半より所長の農村経営。美化に関せる昨日の続なり。本日武道にて上半円、翳、体当を習ふ。七時夕食、九時礼拝、湯に入らんとせるに微温なりし故入る不能、早速褥に入り込む。

一月八日 土 雲

起床、朝武道例の如し。午前産業組合の学課（長曾我部先生十時——十一時半迄）、昼飯をなし、午后より各自自由。帰省するも有り。勉強せんとする方有り。外出せんとする方有りて参々五々なりき。余も亦帰省の一人として免る能はざるものなり。

壹月九日 日曜日 晴天 松田

起床五時例の如し。武道を行ふ。講堂にて君ヶ代再唱、菅原君、勅語奉読、朝食。放ちおかれたる日曜の事なれば皆思ひ思ひに外出した。余も午后から図書館に行つて読書した。夜礼拝、九時消灯。

壹月十日 月曜日 晴天

朝起床例の如し。我第六組ハ掃除当番に当つて居たが、高嶋君と余の二人のみ。道場等半ばにして中止の止むなきに至つた。後中学生二人及杉原君手伝ひに来る。犠牲的精神等と常々教へられて居る余等も、凡人の悲しさ如何とも致し難し。人数の少なき事など不平に思はるので

あつた。慎しむあり、慎しむあり。

朝礼の中、一代の思想家にして志士なる鹿子木氏、所長の案内にて見えられた。順番歸りて勅語奉読、江坂書記代読。朝食、鹿子木氏も寮内を廻覽せられて此処に至つた。学課は加藤先生の農村経営。其後鹿子木氏の講話があつた。一言隻句総て之れ憂国結晶であつた。その底力のある強い言葉、その態度、これ国難を前にして国防の大半を説いたアテネの国士テミストクレスの風采があつた。国難正に目前に迫つて居る。然るに国難を前にして皆人は私個にのみ執着して大半を忘れて居る。せめて諸君丈でもと二時間に及ぶ妮々たる熱弁を振つて其の面にて誠の光が輝いたのであつた。聞くもの、顔にも皆感激と悲憤と決意の色が浮んで居るのであつた。昼より大掃除を行ふ。後武道。就褥例の如し。

一月十一日 火曜 曇

朝例の如し、武道を行ふ。君が代再唱、勅語奉読、例の如し。午前中ハ習字を習つて清書を書いた。午後は我等藁をしごき縄をなふた。有志の柔道あつて夕食。礼拝九

時就褥。

新年会開催の予定の処、加藤先生風邪に侵され玉ひし由なれば、延期した。寮生一同先生の御全快の一日も早からん事を祈らぬものなし。

一月十二日 晴 高嶋

朝五時起床、例の如く武道。小生齒痛の為欠席。午前中学科、五十嵐先生の金井村研究、午前拾時より荒木技師の桑樹栽培の御講話あり。午後は実習に武道。夜入浴す。九時礼拝就寝す。

一月十三日 晴

午前中は例の如く別に変りなし。午前中の学科は吉野林業技師の公有林野整理の御講話ありたり。其後長曾我部主事の産業組合の講話あり。後は実習に武道、六組実習草履作りヲナシタリ。夜九時礼拝、就寝ス。

一月十四日 雪

午前中は平日にvariなし。五時に起床、武道終了後君が

代合唱、教育勅語朗読、変りなし。中館地方課長御出迄習字の練習、其後中館課長殿の自治行政あり。午後壱時より県会議事堂にて山崎延吉先生の御講話を拝聴せり。農村の自覚と題して有益なる御話たり。其前農商務省技師渡辺氏の御講話もありたり。五時半頃帰所。九時札拝就寝ス。

一月十五日 土曜 工藤

本今朝招摺者〔招魂社〕札拝、僕等第六組掃除当番なりし故、社前の雪除けをやり道路を開く。参拝后渡辺堡治氏の産業労働問題に關した有益なる講話有り。十時より同氏の農村経営に關せる講話、議事堂にて一同謹聴。

一月十七日 月 晴

今朝の祓は僕がやつた。午前産業組合の学課、午后より第六期生最初の弁論大会開催。弁士諸君の熱烈なる講演振りに全く感服せざるを得なかった。

一月十八日 火 晴

午前五時起床冷水浴は水量豊富にして頗る愉快。武道をみつしりやる。八時より十時迄習字。十二迄有吉学務課長の憲法講義、午后大掃除をやる。我第六組は食堂、炊事室、附属室並に洗面所なりし。三時より六時半迄撃劍の仕合有り。諸君の目覚ましき奮闘を見る。痛快。夜入湯九時札拝、奮闘の疲労を床中に癒すべくもぐり込む。

壹月十九日 水 曇

朝五時起床、冷水浴、平常ノ如シ。十時所長ヨリ小学校長入所ニ対スル注意アリ。怠慢ノ惰夫ガ肺肝ヲエグルニ足ル。尚五十嵐君ノ金井村研究アリ。午后小学校教員入所ス。夕方武道アリテ晚餐何時モノ如ク札拝シテ着床。書キ落シ十九日柔道ノ試合アリタリ。無慮四十名ノ生徒青畳ノ上ニテ奮闘ス。愉快極ルコトナカリキ。

一月二十日 木 雨 加藤

最初の小学校教育〔教員〕との合同生活であるから仲々興味ある問題である。彼等教育者達は朝起を以て最も嫌悪辛酸と做して居るらしい。朝飯後所長ノ訓話アリ。其

ノ次ニ武道、昼飯ハハン〔パン〕五切、代価拾五錢ト聞
いてハ呆レル。モ―少し沢山有いてもヨイト感じた。午
后ハ菓細工、四時迄私共即ち十九号室にハ西置賜郡ハ鈴
木震次郎ト言フ先生ガ腰ヲ据ヘタ。晩飯後ハ各自黙読し
礼拝して着床。

一月二十一日 金 雨 加藤貞作

朝五時、五里暗黒の裡床を蹴つて冷水浴。手槽に汲むた
る冷水五杯、双腕高く捧けて沐する時の快感。豈否〔不
か?〕筆を以て名状するを得んや。朝食もそこそこ女子
師範学校長の講演あり。其の大要を縷べんか、我が国家
の現状を□目して見る時、其の氾濫せる思想の源泉は何
処より来りて如何なる結果を及してあるかと謂ふ事に付
て、諄々として卓見を披れた。昼飯はパン三切、量に於
て質に於て、何れも不満を感じた。後は養徳園視察、
丸太りに太った園長は重苦しい態度を以て園の内容を談
す。次で各自園内を観覧、十四五歳年少なのは九才位の
子供が頻に仕事に熱中しつある様は仲々美感であつた。
後后四時頃帰所、晚餐は六時、九時頃着床。

一月式拾貳日 雪 土曜日 松田時郎

起床例の如し、武道を小学校教員と一同でやつた。炊事
は本日より教員の方々が始められた。君か代再唱、勅語
奉読。男子師範学校長伊之宮氏の実業補習学校に就いて
の講演ありき。引き続き十一時半まで。午后一時より煙
草専売局を視察した。五時まで帰宅の半にして自由解散。
同局の衛生上の有様が何うかと思はれた。九时就寝。

一月式十三日 晴 日曜日

起床前日の如し、武道、舟越先生亦来る。君か代再唱に
聖思の□に新なるを覚ゆ。勅語奉読、後食事。男子師範
校長の講演及十時より女子師範校長の講演あり。世界支
配の五大民族の事につきて、大日本帝国の万国に優れし
所以と吾人の覚悟となり。午后休なりき。中学時代の友
尋ね来り外出。七時帰舎黙読あり。九時消灯。

同廿四日 曇 月曜日 松田時郎

朝寝坊の為武道数分間遅る。君か代再唱、勅語奉読、朝
食。加藤先生の農村経営ありたり。何たる熱誠、何たる

心の叫びぞ。吾人は真にその言葉の中に引きずり込まれ
たり。皆真剣に息を吞んで拝聴した、十一時半まで。午
后大掃除の後、農事試験場視察に行く。その話を聞いて
居る最中、自治講習所より電話ありたり。父来りし由に
て直ちに帰舎。委員幹事例会の第一会を閲覧室に開く。
議論終りたり。

一、朝起床のトキ鈴を長く振って貰ふ事にした。佐藤孫
左衛門氏曰く、真剣にて五時に起ると思つて寝れば必ず
醒む。その必要なしと。我等は飽くまで真剣なり。但各
自の身体の異なるあり。前日の労働の如何により、亦は
その為に疲労の程度如何により、又ハ睡眠の度の深淺の
如何により一律二定むべからず。況んや鈴を振る時間の
少し位長きとて、況んやその為に総ての生徒の満足に起
床し得る場合に於ては、それ鈴を振る時刻の長き、労を
厭はざるの心掛なかる可らず。人間ハ枕時計に非ず。

二、炭持ち来らざる事決定。

三、炭を□郷の先輩の処から購求の事。

四、図□□間に返却の事。

五、朝病氣にて寝るトキ、本人亦ハ同室の人が事ム室に

申居しくる事。

江坂書記より頭髮ハ短にせよとの希望ありき。九時礼拝
して就寝。

一月廿五日 火曜 工藤貞蔵

起床例の如し。所長の農村経営、教員方と一処に習ふ。
午后より武道、教員等と一処にやる。後柔道撃剣随意な
れば笹原君と撃剣をやる。思ひ切つて叩かれた。僕も思
切つて叩いた。其の結果頭に少なからぬ凹凸が出来た。
余り氣持の良いものではない。僕の従兄来訪。夕飯後帰
宅、九時礼拝就寝。

一月廿六日 水 曇少雪

今朝僕等掃除当番なり。金井村研究長澤地方指導、加藤
所長の講話有り。午后より引続き三時迄所長の農村経営
の学科有り。後武道をやる。四本目を習ふ。夕方帰宅、
九時礼拝、日誌を書いて就寝は十時近かつた。

一月廿七日 木 晴

本日の冷水浴には気持ち良い程寒く感じた。十時迄武道、其れより昼迄産業組合の話。午后一時より三時迄所長の農村経営、地主対小作人問題に付きてなり。其れより四時迄武道室にて所長の武道に関せる種々なる有益なる併かも一寸滑稽なる講話有り。礼拝等例の如し。

一月廿八日 金曜日

五時起床、武道。午前中加藤所長の農村経営船津翁の御話アリ。我々の為に非常に有益ナリキ。午後清水先生の産業組合の御講話アリタリ。夜は清水先生歓迎の意味と短期生との懇談会ナリ。座間に於て両先生の有益ナル座談アリタリ。九時就褥。

一月廿九日 土曜日

午前中加藤所長の農村経営と清水先生の御講話アリタリ。清水先生の経験談、実に苦心の跡見へたり。先生の如き人ありてこそ始めて農村問題は解決スベキモノト思ハル。午後師範学校に武道の納会に行キタリ。夜は長沢先生の肥後の菊地氏についての幻灯アリタリ。ココニ於て始め

て菊地氏なるものの偉大なる人格を知れり。終り。

卅日 曇り 日曜日

五時起床、八時—十時二十分迄、所長の農村経営、拾時半ヨリ清水先生の産業組合。午後八武徳の試合。有志武道、本夜入湯。

卅一日 月曜日 雪

起床後武道。午前中、清水先生の農家々計の確立ニ付テ。午後モ清水先生の産業組合。午後先生方武道。九時礼拝、消灯。

二月一日 火

午前八時ヨリ拾一時迄清水先生の御講話。拾一時ヨリ一時間の御話。午後再、所長の御講話。晩食后入浴、九時消灯。

二月二日 水

今日は短期生等の帰宅日なりき。いと名残。午前中一時

間吾々に対しての将来の注意。次一時間清水先生の産業組合の設立ニ付キ講じられた。拾一時先生等の終了式。僕等も今日ヨリ三日間ばり「ばかり」休み。大部分帰宅。

二月七日 月

朝五時起床、武道。今日ヨリスキー講習ニ行ク事トナレリ。午前中黒田先生ノスキーニ関スル話アリタリ。午後ヨリ運動場ニテ実地練習アリ。不動姿勢、平地上の方向変換等、色々と教授サル。終り。九時消灯。

二月八日 火

本日も同じスキー練習。馬見が崎の堤にて真剣に稽古セリ。本日ヨリ朝ノ武道休み、九時礼拝。

二月九日 水

本日も前日ト同じ。双月山の麓にて練習ス。種々ナル方法の稽古ス。心身非常に疲労ヲ覚ユル事初ナリ。

二月十日 木

五時起床前日に同じ、双月山に登る。実ニ壮快ナリ。東北男子の意気躍如タリ。九時礼拝、消灯。

二月十一日 金 高嶋

本日はスキーの競技会ナリ。小生事腹痛の為いかんながら欠席せり。自治寮の選手も非常なる元気ナリト云フ。競技会終了後、証書授与式アリトス。夜は例の通り礼拝消灯。

二月十二日 土

五時起床武道ナシ。帰宅休ミの為。

二月十五日 火曜日

朝武道、午前十一時頃ヨリ柔道。午後ヨリ山形卅二聯隊ノ見学。特務曹長の案内、営内ヲ見る、又機関銃ヲ分解シテ説明サル。甚有益デアツタ。ソレカラ三浦中佐の西比利亜の実情の御講話アリタリ。余大イニ考フル所アリタリ。午後南置賜の短期生入所ス。

二月十六日 水

六組黙読、午前八時ヨリ習字。拾一時頃ヨリ北海道高野先生の御話アリタリ。午後ヨリ県庁の矢板氏の講演アリタリ。夜は有吉学務課長の課外講演アリタリ。九時消灯、就褥。

二月十七日 木

吾組ハ黙読。午前中山形連隊区司令部の川端大尉の動員に付ての講演アリタリ。昼食ハ十五銭の食物、午後一時ヨリ所長の講話アリ、二時頃ヨリ全部武道。九時礼拝例の如し。

二月十八日 金

五時起床、武道。午前中男師範校長伊之宮先生の講演アリ。午後風呂当番、夜食後茶話会。愉快愉快。九時礼拝例の通り。

二月十九日 土

五時起床、平日ノ通り、別レテ変リナシ。午前中自習、

十一時頃ヨリ中館課長ノ講演アリ。午後ハ各自自由。夜ハ例ノ通り。小生帰宅。

二月廿日 日

長期生全部黙読、午前中加藤所長ハ精神問題及地主対小作問題、午後ハ休ミ、自由。帰宅ス。

二月廿一日 月 晴 工藤

朝五時起床武道。午前所長の肥料学並ニ作物栽培の学科有り。後后大掃除、六組は寮内全部なり。武道をやる、二本目の仕太刀、夜の場、九時礼拝就寝。

式月二十二日 火 曇

随分寒気甚烈なる朝だ。為めに武道も層一層の真剣さを加へた。所長の農村経営並ニ作物栽培、午后より武道所長自身指導さる。礼拝、平常と変リなし。

式月二十三日 水 曇雪

朝の武道は風邪に侵さる、処となしたる故出ないで農村

経営を筆記した。所長の作物栽培並ニ産業組合に関せる学科有り。午后より柔道の試合をやる。自治寮健児の奮闘はいつも乍ら勇ましいものだ。

二月二十四日 木 晴 金

午前ハ所長ノ農村経営及ビ作物栽培ノ御話アリタリ。午後ハ一時半ヨリ三時半マデ武道、其ノ後ハスキーニ行クモノモアリ。柔道ヲナスモノモアル模様ナリ。余ハ外出ス。七時ヨリ黙読。九時礼拝。

二月二十五日 金 晴

掃除当番ナリ。食後官舎ニ行キテ風呂ノ水クミヲ為ス。午前中ハ所長ノ講話、午後ハ撃剣ノ仕合アリ。余ハ病氣ノ為出席セズ。官舎ニ行キテ雪ヲハラフ。佐藤彦太郎君来舎。夜ハ入浴シテ九時礼拝。

二月二十六日 土 晴

午前ハ所長ノ講話、真剣ナラザルヲ責メラル。午後ハ休ミ、村山郡ノ卒業生、七八名来舎、中川君モ来舎ス。

二月二十七日 日 雨

午前十時ヨリ村山各郡修了生ノ総集会アリ。三十余名ノ集合ヲ見タル由、終日読書、其他。

二月二十八日 月 曇

午前ハ所長ノ地主対小作問題ノ御話並ビニ肥料ノ講義アリタリ。午後ハ大掃除、余ハ櫻井兄ト官舎ノ鶏舎ヲ掃除ス。九時礼拝。

三月一日 火 曇後雨 沖田

東村山郡金井村研究に八時出発九時半に役場に着了。色々研究して午后四時帰寮、九時礼拝。

三月二日 水 曇

午前中は自習及長曾我部氏の産業組合の講話。午後は武道。九時礼拝就床。

三月三日 木 天気曇

午前拾時頃迄自習後荒木氏の桑樹栽培の講話。午后武道、

九時礼拝。

朝六組掃除。

三月四日 金 天気曇

余は風邪のため拾時迄休む。併し自習であつた。横田氏の林業講話ありたり。午前所長の御話し、夕方豊田村青年会の短期講習、九時礼拝。

三月五日 土 晴 加藤

冷水浴ノ冷タサ心持ヨサ、酒池肉林モ只ナラズ。武道ハ一二三組、短季生〔短期生〕ヲ相手トシテ遣ル。午前七時委員会アリ。今度ノ短季講習ニ附テノ吾等ガ講習ノコトナリ。結局短季生ト共ニ聴講スルコトセリ。所長ノ居ル中ハ日曜ハ所長ノ指定ナリトセリ。真飯〔昼飯?〕ハ〔寿シ〕。午后武道、四五六組先生率先シテ激励ス。一二三組自習（縄綱ヒ）。

五時聯隊ノ三浦中佐来リテ思想ノ戦ノ偉大ナル力アルト説キ、猶太人ノ大陰謀ハ多襲派、即チ過激派ヲ武器トシテ先ツ露国ノ上級ヲ奢肆〔奢侈〕ニセシメ、下級ノ愚民

ヲ煽動シテ地主小作資本労働ノ闘争ヲ起サシメ、露国ヲ根底ヨリ覆サントシ、遂ニ功ヲ奏シ、尚進ンデ英国ヲ騒ガセ、仏国米国ハ共和国ナレバ、只東洋ノ一隅ニ□□日本帝国、己ハ迎モ容易ナラズト謂ヒ居レリト言ヒ、彼等ガ暗号ニヨレバ□ハ上流社会ニ放肆〔放恣〕遊惰金銭万能ノ弊〔弊〕ヲ造ラシメ、下級ヨリハ之等ニ対スル反感ヲ煽動シ、学校ヲ擾乱サセ、而カシテ彼等ガ世界統一ノ大陰謀ヲ果タサントシツアルナリト説キ、主義（社会主義共產主義等）ハ単ニ理想モナク目的モナキ彼等ガ手数モテ世界ノ根本ヲ破壊セシムベキ大爆彈ナリト言ヒリ。而シテコノ恐ルベキ思想□武器ニ對抗スルニハ奈如ナルモノヲ以テスベキカト言フト、只吾等ハ此ノ国体ノ发扬ヲ計リ、大和魂ヲ鞏固ニ且ツ磨キ上テ、日本国民ガ一心同体ト結束シテ之ニ当ルニ若ズ。之唯一ノ武器ニシテ之ノ武器サヘモ鞏固ナラバ、万万千年モ之ノ日本ノ皇威ハ赫々トシテ輝カントテ降壇セリ。

夜茶菓子ヲ嚙ンデ中佐ノ話ヲキク。日露戦争ノ話カラ、武士道ノ話カラ、花田中佐ノ性格カラ、凜々トシテ勇氣自ラ勃発スベキ訓話アリ。武道ノ精神ノ発露ノ実験談ニ

シテ吾等ヲ益スルコト少カラサルモノト謂フベシ。先生ノ話ハ吾等日常生活ニ応用スベキト□□。九時頃帰ル。札拝シテ就褥。今日ハ誠ニヨキ訓ヲ得タル幸アル日ナリキ。

三月六日 日 晴 加藤

五時起床、襖馬見ヶ崎ノ河水干ル。朝武道、午前所長ノ農村経営、益有り。午后六組実習、風呂番川水干ツタレバ、井戸水ヲクンデ風呂槽ニ給ス。一時間半ヲ経テ漸ク満タスヲ得タリ、八時頃入湯シテ就寝。

三月七日 月 晴 加藤

朝冷水浴ノ利キ目ガ沢山ダツタ。午前ハ武道、午后ハハ「ママ」実習、武道ハ短季講習生ガ視察、晩ニ短季入湯、就褥。

三月八日 火曜日 松田

朝五時起床、武道あり。君が代の再唱及勅語奉読、天皇陛下の弥栄を称へまつり皇太子殿下の御安行を祈りまつ

りて弥栄を称へまつりぬ。本日は休業なりき。妹の病心配に堪えず。休ならば来らむ□しものと悔いらる。豊田村青年帰村。午后九时就褥いたしぬ。

三月九日 水曜日 松田

朝例のごとく起床した。武道。勅語奉読、君が代再様「唱?」、聖上の弥栄を称へまつり、皇太子の宮の御安泰を祈りまつった。朝食例のごとく授業は農事試験場長の試験場についての話あつた。午后三組まで金井村に武道を教へに行つた。帰後夜食、後例のごとし。

三月十日 木曜日 松田

朝例によつて例の如し。君が代再唱、勅語奉読、つつしんで聖上の弥栄を称へまつりぬ。畏くも遙か万里の波濤をけつて長途の旅にのづらを玉ひし君春宮の宮の唯誠の祈念の外はあらじ。四拾名余の誠心の祈念の声はかくして江坂書記の発声により明けの霧を破つてひゞき渡りぬ。午前菊地□□生の養鶏に関する話ありたり。長曽我部氏の産業組合。□「余?」は金井村、余は透写板「謄写

版」を命ぜられた。夜例のごとし。

三月十一日 金 桜井

一、馬鹿に天氣がよい。春乃気分十分に思しめた。

二、午前長沼君と江坂さんの軍隊生活乃御話。

三、午後裁判所に公判見学。

四、江坂さんと安達君、井上君と青ちゃんと停車場に行く。秋田より上京する先生に青ちゃんをわたす。帰路船

越先生の病床を見舞。

五、舍真暗、何の為めか？

三月十二日 土

一、学務課長ノ講義

一、昨日と一変し雨雪□□し

一、午後休、平凡な日なり

三月十三日 日曜日

例乃日曜日の如く騒々しい。楽器をならし歌を歌ふ有り。

曇り後晴れ後又曇る。

三月十四日 月曜日

朝飯後大掃除、九時ヨリ県会議事堂ニ農具講話ヲ聞ニ行く。講士〔講師〕廣部技士〔技師〕、午後四時迄、得ル所大ナリ。

三月十五日 火 雪 金

熊野神社参拝後議事堂ニ行く。六時帰舎。寒気又甚ダシ。掃除当番ノ日。

三月十六日 水 晴

議事堂ノ農具講習会ニ行く。午後終了式アリ。五時帰舎。所長帰所。夜茶話会ヲ開ク。所長ノ訓話。二時ヲ過シ、十時過札拝就寝。

三月十七日 木 晴

午前ハ所長ノ農村経営並ビニ肥料ノ講義アリ。午後ハ一二三組武道、四五六組実習ナリ。九時礼拝。

三月十八日 金 晴后曇

本日午前長曾我部氏ノ産業組合。午后第二回弁論會、十六名ノ弁士熱烈ナ論争アリ。午后五時閉會、就褥。

三月十九日 土 晴

今日ハ朝武道修鍊ヲ為ス。食後自習默読、十時頃ヨリ長曾我部氏來ラレタ、然シ産業組合講義。午后ヨリ随意帰省スル人アリ。入湯就褥。

三月二十日 日 晴 加藤

例の通り真影流四本の熱烈なる練習あり。昼食迄講師來タラサル故、默読休ミ。夕方極ク少数ノ人食ヲ終へて就眠。

三月二十一日 月 夕方雪 加藤

起床五時今日は春季皇靈祭ニテ休をス。朝ハ残りの人々ニテ大掃除ニ行ク。午後よりぼつぼつ帰寮した。礼拝して就褥。

三月二十二日 加藤

冷水浴、武道。午前の肥料学（所長）。午後ハ大掃除之吾等ハ講堂、図書室、道場等、九時半就褥。

三月廿三日 晴

昨日の頭痛之全て去り心持よし。五時起床、五十嵐氏金井村研究。午後ハ農事試験場ニ見学ニ行ク。講話ハ農産製造ノ事デアッタ。又午後秋田県知事御視察あつた。僕等ハ見学ノ途中、門前ニテ御迎へ申上ゲタリ。帰寮五時七時ヨリ默読九時、礼拝して床ニ就ク。終り。

三月二十四日 晴

起床五時炊事五組、其ノ他朝寝坊ヲ除イタモノハ武道八時ヨリ。所長ガ肥料講座（硫酸、智利木灰）ありたり。午後ヨリ一二三組武道、残りハ実習、農事試験場、練習生來所、所長ノ口演（講演）アリ。夕飯後默読して就褥。

參月廿五日 金 松田

朝五時起床、例によつて例の如し。武道あつて後、君が代再唱、陛下の弥栄、東宮殿下御安泰を祈り奉りて弥栄

を称えまつりて満腔の誠意以て祈念を奉げまつた。朝食。ガラスキンドウから彼方を眺むれば、今日は最早雪も降らず長閑な春の候がもう目覚めて来て居る。私は最う満心のあくがれを以て開墾地の労働を求める。午前農事試験場練習生と共に所長農村経営を聞く。弥栄を身にしみ渡るを覚ゆる。午后工業試験場参観に行く。帰りて武道、黙読。九時就寢した。所長等八十時より中川村に行かれた。

参月廿六日 土

朝五時起床武道、君が代再唱、陛下乃平安の御安泰を祈りて弥栄を三様〔三唱〕した。朝食。午前加藤所長、□の日程の事について話ありたり。余等も共鳴す。現代名氏の腐敗驚く可し。余等眼を見張つて驚異するのみ。午后休業外出するもの多し。後いつもの如し。就寢九時。

三月廿七日 日

朝五時起床。余等大掃除。君が代の再唱。陛下の弥栄及東宮の御安泰を祈りつゝ、弥栄を称へまつりぬ。朝食後

休みなり。余は教会に研究に行□□□等公園に散歩に行きぬ。黙読九時、後□。

三月廿八日 月曜日

午前中所長乃在郷軍人と青年団及地方自治乃御話、所長中野村に御講話に午後より出張、午後より大掃除を行ふ。

三月廿九日 火曜日

午前中所長乃経済、食量〔食料〕問題、午後より武道、夕食後佐藤孫左衛門君乃送別会有りたり。

三月卅日 水曜日 日本晴

午前中習字、書取、金井村研究アリ。午後一二三組武道、四組風呂ニ水吸ミ、五六組農場実習、近日ニナク好天気。

三月卅壹日 木曜日

春乃気分濃厚になった。有吉学務課長乃憲法乃講義、午後武道に実習、夕食後長澤地方施導〔指導〕ノ送別会有りて、十一時寝ル。

四月一日 金 晴天

五時半起床、一日に付神社参拝午前中。学科加藤所長の講話の後、横田技師ノ林学の講話。午後実習に武道。本日新入生として東京より内藤君、秋田県より小松、佐藤両君入所せられたり。互に今後皇国運動を為して励ん事を望む。本日午前拾時の下列車にて、長く吾等の先輩として教導なされた佐藤孫左衛門君□〔は?〕出発なされた。彼の前途を祝福すると共に健康を祈らん。入浴し午後九時床就す。

四月貳日 土曜日 晴

朝例の如し、五時起床。天皇陛下の弥栄を三唱。午前中は加藤所長の農村経営。午後土曜日二付休み帰宅。

四月三日 日曜日 晴

四月四日 月曜日 晴

午前所長の農村経営並に有吉学務課長（否中館地方課長の自治制度の自治制度ノ講義有り。月曜日に付大掃除を

やる。炊事場より鼠一匹捕獲、六組は風呂当番なりし故、湯豊富すべく馬力を出して汲む。夜の湯。九時就寝。

四月五日 火 晴

午前は所長の食糧問題に関せる講話有り。午后より一二三組は農場実習、四五六は校外掃除、諸君の真剣なる奮闘に依り急に奇麗なつた。廃物利用として山寺石を炊事場の北に敷いた。

四月六日 水 晴

午前所長の食糧問題に関せる講話。午后市役所にて荒木技師の松木改良に関して講話、拝聴直に原蚕種製造所に行き、実地指導を受く。

四月七日 木 雨

六組掃除当番、午前八所長ノ経済並に二農村経営ノ御話、午後八一二三組武道、四五六組ハ実習。

四月八日 金 晴

高野先生本日ヨリ当所ノ教師として北海道ヨリ赴任ス。
夜ハ之ガ歓迎ノ意ニテ茶話会ヲ開ク。午前ノ学課ハ所長
ノ農村経営、有吉理事官ノ憲法大意、横田技師ノ林学大
意ナリ。午後ハ一二組校外実習、他ハ武道ナリ。十時礼
拝、就寝。

四月九日 土 晴

午前ハ所長ノ農村経営並ビニ肥料ノ御話アリタリ。帰省
セルモノ二十名近クニ達ス。午後四時ノ下リニテ所長ハ
東置賜郡上郷ニ出張。

四月十日 日曜日 晴

例日曜と同じく外出する者、楽器をやる者等ありたり。
余も外出した。九時礼拝、就床。

四月十一日 月曜日 晴

午前中は高野先生の北海道及米国の御語及加藤先生の農
村経営の講語、午後大掃除後武道、九時礼拝、其時秋田
旅行の語があつた。後就床。

四月十二日 火曜日 天氣曇

午前中は高野先生の肥料の講語及加藤先生の農村経営の
御語あり。午後は一二三組実習、四五六組は武道、九時
礼拝、就寝。

四月十三日 水 加藤

本日余ノ大ニ頭痛ニ病ム。友人ノ介抱甚到レリ。温度三
十九度ヲ算ス。所長ノ農村経営アリ。午后実習、就褥。

四月十四日 木

今日モ先生ハ心配シテ医者ヲ連レテ来ル。所長ノ農村經
営。炊事ナレド仲人数揃ザル為メハカドラズ。午后武道、
外出スルモノアリ。十時頃着床。

四月十五日 金

今日は床を蹴つて全快を喜ぶ。農村経営、肥料学、高野
先生。午后綿撚実習。

四月十六日 土

午前五時起床、八時頃より所長ノ学課農村経営、其ノ次ハ習字、突然此ノ時、一天兵事勃発ス。果然済生館二居ル一女性郷里ノモノナルガ、明後日郷里ニ帰ル由ニテ我ヲ訪ヌ。吾レ何モ疚しき事なし。然れども其れ又油断アリトテ所長ヨリ懇ニ諭されたり。余感涙ヲ結ベリ。

四月十七日 日

帰舎セル少シ、小平先生ノ来ル筈ナレバナリ。外出スル者多シ。今日ヨリ六組炊事ヲ了エタリ。明日ヨリハ第一組ノ筈ナリ。

四月十八日 月

朝定時起床、武道礼拝。食後昨日以来小平先生ノ講演各地ニ於ケル地主小作問題ノ紛糾ヲ説明。午后モ引続キ講演、午后三時半。全ク終リ小平先生ハ午后七時発列車ニテ帰省セラル。夕飯前各自散歩等外出スル。夕飯後黙読、礼拝アリテ就褥。

四月十九日 火 晴

午前五時起床、武道、礼拝、食後加藤先生の農村経営頂く。有吉実氏ノ憲法大意。午後藁仕事、武道。

四月廿日

朝ハ例の如し。八時より加藤先生ノ農村経営、茲ニ緒論也。後植物学ニテ午后藁仕事及武道、秋田旅行ノ予定を書く。其ノ他ハ、例ノ如シ。

四月二十一日 木 晴

本日午前中ハ中館先生ノ自治制度、次ハ加藤先生植物、次ハ実習、武道、就褥。

四月二十二日 金 雨 加藤

蹴床五時武道礼拝后所長ノ植物生理、同化作用之事、次者中館氏之、否間違リ、横田氏之林学大意アリ。了ッテ後、午后道場ニ於テ所長ハ備品調査之事ニ附テ話ナリ。各分担ヲ以テ大掃除。帰宅スルモノハ直ニ帰宅シ、残ル者六組三人、事務室、倉庫、応接室之整理ヲス。五時頃漸ク終了。夕方、有意義ナ娛樂ト風呂トニ入ル。

四月二十三日 土 曇 加藤

朝五時武道ヲセズニ吾レハ圖書室之整理言附ラル。所長ト共ニ大努力、書名、著者名之表之造乃規則（自治講習所）ヲ作ル等、三四人シテ午后二時頃終了。今日ハ奥羽六県之県會議員參觀ニ六十名近ク來ル。されど彼等ハ真之參觀之外何物モ無クシテ、之ヲ訊問シ、之ヲ考究シテ參考ニ資セントスルガ如キト少シモナシ。彼等之意中察スルニ難シ。實ニ彼等ハ慰樂之為メノ參觀ニテヤアランノ哀ムベキ哉、国家ノ枢要ニ参与シ侃々普遍意志ノ決定ニ与カル彼等ガ斯如ニ於テハ、吾等熟々之觀テ彼ヲ感ジテ慨然転タ無量。夕方公園散步。十時就寢。

四月二十四日 日 曇 加藤

朝五時武道礼拝、何時もの如し。所長御話しあり。旅行上之注意あり。旅行の仕度として今日之仲々忙し。夜八時頃就寢。

四月二十五日 月 晴

愈々今日ハ秋田旅行、二時起床出發、前日からの用意あ

れば一同勇み勇んで停車場ニ躍進。月下黒陰桜花の下を通る時、一汐（一入）之緊張之感あり。月下長蛇風を切つて北進、秋田山形之境及位之辺ニテ漸ク夜は明けて行。大曲ニ七時半頃着、陸羽支場ヲ視察して色々品種ニ附て得る所あり。汽車ニ後れしどかけ走して停車場ニ着、漸ク間に合ひ行。次は刈和は□ニ下車、半道、□□所の支場農場參觀、色々之試験ニ興を得る。次は秋田、着、県農會及感恩講及ビ育稚院參觀、秋田市旅館一泊、講演參觀、九時就寢。

四月二十六日 火 晴

朝未明秋田出發、加藤先生は昨夜より腹痛により大に困み、医者の手ニ掛る仕末。我等は知らねど高野先生と金君とが大に心配なされたり。我等之軍団ハ篤胤先生の墓ヲ参拝し、国家ノ大偉人の昔日の倂を偲ひ、大久保に向ふ。斯くて砂丘、海水の遙かに見ゆるあり。大久保着、土崎の石油會社を汽車の窓より眺めつ。石川太郎氏ノ一心館に腰を掛け、武道をなし、夫より石川翁宅迄、石川翁宅ヨリ草木谷の翁が山居の所を參觀。夫より帰宅し

石川翁宅一泊、歓待、其の極を尽す。石川翁講演集を分ツ。十時頃一就褥。

四月二十七日 晴 加藤

石川翁宅七時頃出發大久保より四ツ子谷〔四ツ小屋〕迄往つて下車、急ぎ森川翁迄。翁の幽谷の往心情を扱〔汲〕みて諄々翁が熱誠の訓諭に深く感動し、翁ノ見送をかたじけのうし、翁が弥栄を三唱し、かけ走にて四ツ子屋迄かへる。漸くして汽車に□に合ふ為一里の競争なり。

四つ子やより汽車の旅にて大石田迄、途中特記することなけれど、仲々愉快の旅なりし。大石田八時頃着、最上屋一泊、十時礼拝就褥。

四月二十八日 曇 木 加藤

大石田最上屋出發、六時頃横山村田沢三ツ麦の成績を一見し、大高根、富並、山の内を過ぎ開墾地迄。開墾地は仲々山奥の高い所である。開墾地に到り冷水にて汗を流し、大神宮を参拝致し、色々所長の御話ありて次は昼飯、少憩の後出發、大石田迄大かけ走。

四里の場所一時間半位で着く。以て其の努力を知るべし。大石田にて六時の汽車の筈なりしに、三時の汽車ニテ間に合ふ。漸くして山形駅着四時半、講習所に五時着。色々旅装を取つて足を伸す。公園二行くものあり。豆を擦るものあり、残れる人々の炊事の御蔭にて吃飯し、八時頃就褥。

四月二十九日 曇 金 加藤

本日は武道なし。六時頃起床。先生の農村の事物、植物生理あり。試験あり。午后高野先生の肥料あり。夫から各自旅装を調ひ（帰宅の）又は散歩。夜八時より茶話会、開墾地又は旅行其の他の先生の注意ありたり。菓子を食ひて九時頃就褥。

四月三十日 土 晴 加藤

朝五時起床、大掃除、六組ハ本館の周囲と言ふ割当なり。礼拝し武道を休み色々旅装の準備（帰宅）カロリー計算会計、其の他ニテ忙シキコト目の暈るが如し。

〈付記〉 刊行後に見つけた誤記等については、ウェブサイトで示すことにしている。「ようこそ三原研究室」で検索して「ようこそ三原研究室@ネット」から「著作物リスト」をご覧いただきたい。